

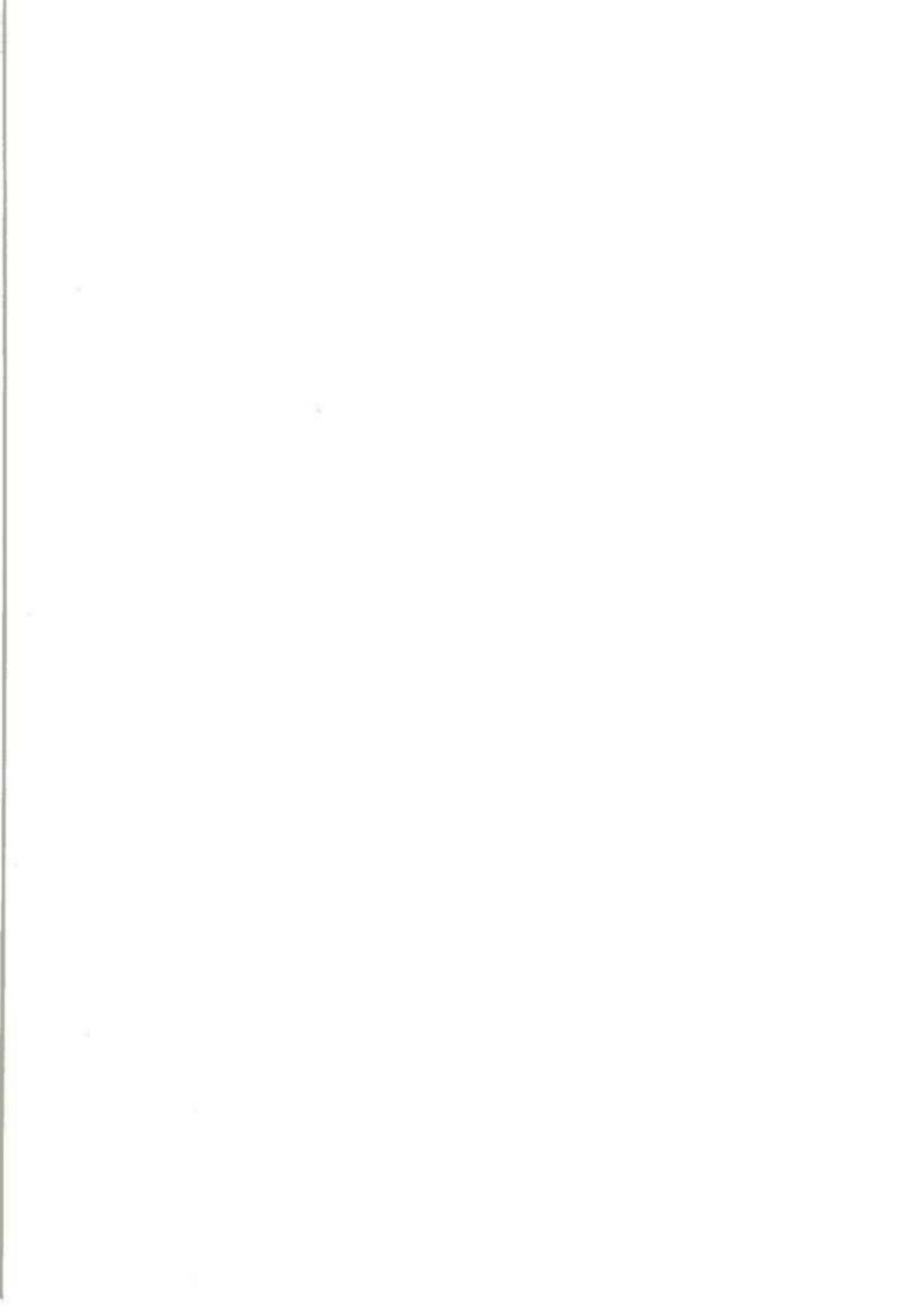
上峰町文化財調査報告書第36集

# 上峰町内遺跡確認調査Ⅳ

上峰町内における開発行為に伴う  
埋蔵文化財確認調査報告書  
—平成16年度～平成20年度—

2013年3月

上峰町教育委員会







## 序

従来、上峰町は「遺跡の宝庫」と言われてきました。北部の脊振山系、その南麓から派生し南北に延びる洪積世丘陵と谷、さらに有明海へと続く沖積平野と変化に富んだ地形を含む町域には、いたるところに先人たちの暮らしの足跡が刻み込まれています。教育委員会では、こうした人々の暮らしの足跡、歴史的資産を保存活用し、将来へ継承していくために、開発と文化財の保護との調整に努めてまいりました。

近世以来の純農村集落の面影を色濃く残してきた上峰町は、昭和40年代後半から「農工併進のまちづくり」を理念に掲げ、工業団地の整備による大規模工場の誘致、農業基盤整備事業の実施とまちづくりを進めてまいりました。町の中央を国道34号線が東西に横断し、ここから、福岡県久留米市へは県道が通るという恵まれた交通環境に位置しており、佐賀市や鳥栖市、久留米市へも最適な通勤圏にあるところから、近年人口も着実に伸び、ベッドタウンとして発展してまいりました。これに伴い、各種商業施設、事業所等の町内進出も相次ぎ、上峰町は平成元年の町制施行以来、この20余年間で近代的な田園都市へと大きく変貌を遂げました。

本書は、上峰町内の埋蔵文化財の保護と開発との調整を図るために上峰町が平成元年度より国庫補助事業の適用を受け実施してまいりました町内遺跡確認調査の報告書であります。この開発に伴う町内遺跡確認調査の実施によって多くの遺跡が破壊、消滅をまぬかれ保護されました。この報告書を学術的な資料として、また今後の埋蔵文化財保護と開発との調整を図るための資料として役立てていただければ幸いです。

なお、この町内遺跡確認調査にあたって、ご指導、ご協力をいただきました佐賀県教育委員会、開発事業主体者をはじめ、関係各位に対し深く感謝申し上げます。

平成25年3月

上峰町教育委員会  
教育長 矢動丸 壽之

## 例 言

1. 本書は、平成元年度から国庫補助事業として、上峰町内で実施してきた町内遺跡埋蔵文化財確認調査のうち平成16年度から平成20年度に実施した町内埋蔵文化財確認調査の報告書である。
2. 本書は、平成24年度の国庫補助事業により、上峰町教育委員会が作成、刊行したものである。
3. 町内遺跡確認調査は、上峰町教育委員会が実施した。
4. 現場での発掘作業は、重機により表土剥ぎを行い、調査員の指示により発掘作業員が精査し、遺構・遺物の有無を確認した。
5. 現場での図面、写真による記録作業は、調査員が行った。
6. 遺構などの現場における写真撮影及び出土遺物の写真撮影は、調査員が行った。
7. 調査後の出土遺物、記録類の簡単な整理作業は、当該年度にそれぞれ実施した。
8. 本書中の挿図・写真図版などの作成作業は、調査員の指示により、整理作業員が行った。
9. 本書の執筆・編集は、原田大介が行った。
10. 本報告書に係る確認調査で出土した全ての遺物及び現場で作成した図面・写真・その他の記録類は、上峰町教育委員会にて保管している。

## 凡 例

1. 「確認調査」・「試掘調査」の用語については、広くは遺跡の範囲内外を基準に「確認調査」・「試掘調査」と区分して取り扱われているが、本書では「確認調査」と統一表記している。
2. 確認調査番号については、年度ごとに平成をあらわす「H」、年度を表す「数字」、ハイフンの後に一連の番号を付して、調査番号としている。本文中、各年度調査位置図・各年度実施確認調査一覧表・各年度の報文中の調査番号は一致する。  
例) 平成16年度に3番目に実施した○○遺跡確認調査 H16-3 ○○遺跡
3. 本文・挿図中の方位については、全て座標北を基準としている。
4. ここ数年来の市町村合併により、上峰町周辺の町村も合併が進み町村名が変更になっているが、本書では、一部を除き、旧来の名称を使用している。
5. 「調査後の措置」については、本文中の標記は最終結果を記載したが、各年度の一覧表中の標記は当該年度末時点での状況を記載している。

## 調査組織

### 平成16年度

調査主体	上峰町教育委員会		
調査事務局	総括	八谷日出夫	上峰町教育委員会 教育長
	事務主任	大隈忠義	〃 教育課長
	経費執行	原田大介	〃 文化係長
		江崎智恵	〃 文化係員
調査組織	調査員	原田大介	〃 文化係長
調査指導	佐賀県教育委員会		

### 平成17年度

調査主体	上峰町教育委員会		
調査事務局	総括	八谷日出夫	上峰町教育委員会 教育長
	事務主任	北島徹	〃 文化課長（～平成17年6月30日）
		八谷勝憲	〃 文化課長（平成17年7月1日～）
	経費執行	原田大介	〃 文化課副課長兼文化係長
		江崎智恵	〃 文化係員（～平成17年11月30日）
調査組織	調査員	原田大介	〃 文化課副課長兼文化係長
調査指導	佐賀県教育委員会		

### 平成18年度

調査主体	上峰町教育委員会		
調査事務局	総括	八谷日出夫	上峰町教育委員会 教育長
	事務主任	八谷勝憲	〃 文化課長
	経費執行	原田大介	〃 文化課副課長兼文化係長
調査組織	調査員	原田大介	〃 文化係長
調査指導	佐賀県教育委員会		

### 平成19年度

調査主体	上峰町教育委員会		
調査事務局	総括	八谷日出夫	上峰町教育委員会 教育長
	事務主任	大隈忠義	〃 文化課長
	経費執行	原田大介	〃 文化課副課長兼文化係長
調査組織	調査員	原田大介	〃 文化係長
調査指導	佐賀県教育委員会		

平成 20 年度

調査主体	上峰町教育委員会		
調査事務局	総括	八谷 日出夫	上峰町教育委員会 教育長
	事務主任	大隈 忠義	# 文化課長（～平成 20 年 6 月 30 日）
		原田 大介	# 文化課長（平成 20 年 7 月 1 日～）
	経費執行	原田 大介	# 文化課副課長兼文化係長 （～平成 20 年 6 月 30 日）
		原田 大介	# 文化課長（平成 20 年 7 月 1 日～）
調査組織	調査員	原田 大介	# 文化課副課長兼文化係長 （～平成 20 年 6 月 30 日）
		原田 大介	# 文化課長（平成 20 年 7 月 1 日～）
調査指導	佐賀県教育委員会		

## 整理作業参加者

島 美保子（平成 24 年度 整理作業員）

# 目 次

序

例言・凡例

調査組織・整理作業参加者

I. 上峰町の位置と環境	1
1. 上峰町の位置	1
2. 歴史的環境	1
II. 調査の概要	6
1. 調査に至る経緯	6
2. 調査の方法	6
III. 平成16年度の調査	9
H16-1 坊所一本谷遺跡(1)	13
H16-2 三上遺跡(1)	14
H16-3 周知外 下坊所地区	16
H16-4 坊所一本谷遺跡(2)	17
H16-5 青柳古墳群	18
H16-6 四本谷遺跡	19
H16-7 三上遺跡(2)	20
H16-8 杉寺遺跡	21
H16-9 船石遺跡	22
H16-10 三上遺跡(3)	23
H16-11 坊所一本谷遺跡(3)	24
H16-12 坊所一本谷遺跡(4)	25
H16-13 大塚遺跡	26
H16-14 周知外 下津毛地区(1)	27
H16-15 周知外 下津毛地区(2)	28
H16-16 外記遺跡	29
IV. 平成17年度の調査	31
H17-1 三上遺跡(1)	29
H17-2 四本谷遺跡(1)	30
H17-3 五本谷遺跡	31
H17-4 三上遺跡(2)	32
H17-5 四本谷遺跡(2)	33
H17-6 外記遺跡	34
H17-7 周知外 九丁分地区	35
H17-8 周知外 屋形原多地区	36
H17-9 大塚遺跡	36
H17-10 米多城跡	37
H17-11 周知外 井手口地区	38

V. 平成 18 年度の調査	45
H18-1 一本谷遺跡	48
H18-2 坊所一本谷遺跡	49
H18-3 西前牟田遺跡	50
H18-4 周知外 井手口地区(1)	52
H18-5 周知外 下坊所地区	53
H18-6 三上遺跡(1)	54
H18-7 周知外 九丁分地区	55
H18-8 三上遺跡(2)	57
H18-9 三上遺跡(3)	58
H18-10 三上遺跡(4)	59
H18-11 周知外 上坊所地区	60
H18-12 周知外 井手口地区(2)	61
VI. 平成 19 年度の調査	63
H19-1 坊所二本谷遺跡(1)	66
H19-2 青柳古墳群	67
H19-3 西前牟田遺跡(1)	68
H19-4 坊所二本谷遺跡(2)	69
H19-5 周知外 井手口地区	70
H19-6 外記遺跡	71
H19-7 檉寺遺跡	72
H19-8 周知外 東前牟田地区	73
H19-9 西前牟田遺跡(2)	74
H19-10 三上遺跡	75
VII. 平成 20 年度の調査	77
H20-1 坊所五本谷遺跡	80
H20-2 周知外 碓地区	81
H20-3 切通遺跡	82
H20-4 檉寺遺跡	83
H20-5 三上遺跡(1)	84
H20-6 三上遺跡(2)	85
H20-7 周知外 下津毛地区	86

## 挿 図 目 次

Fig. 1	上峰町町内遺跡及び周辺遺跡 (1/50,000) .....	2
2	上峰町遺跡地図 (1/50,000) .....	7
3	平成 16 年度 確認調査地位位置図 (1/50,000) .....	12
4	H16-1 坊所一本谷遺跡(1) (1/5,000) .....	13
5	H16-2 三上遺跡(1) (1/5,000) .....	14
6	H16-3 周知外 下坊所地区 (1/5,000) .....	16
7	H16-4 坊所一本谷遺跡(2) (1/5,000) .....	17
8	H16-5 青柳古墳群 (1/5,000) .....	18
9	H16-6 四本谷遺跡跡 (1/5,000) .....	19
10	H16-7 三上遺跡(2) (1/5,000) .....	20
11	H16-8 杉寺遺跡 (1/5,000) .....	21
12	H16-9 船石遺跡 (1/5,000) .....	22
13	H16-10 三上遺跡(3) (1/5,000) .....	23
14	H16-11 坊所一本谷遺跡(3) (1/5,000) .....	24
15	H16-12 坊所一本谷遺跡(4) (1/5,000) .....	25
16	H16-13 大塚遺跡 (1/5,000) .....	26
17	H16-14 周知外 下津毛地区(1) (1/5,000) .....	27
18	H16-15 周知外 下津毛地区(2) (1/5,000) .....	28
19	H16-16 外記遺跡 (1/5,000) .....	29
20	平成 17 年度 確認調査地位位置図 (1/50,000) .....	33
21	H17-1 三上遺跡(1) (1/5,000) .....	34
22	H17-2 四本谷遺跡(1) (1/5,000) .....	35
23	H17-3 五本谷遺跡 (1/5,000) .....	36
24	H17-4 三上遺跡(2) (1/5,000) .....	37
25	H17-5 四本谷遺跡(2) (1/5,000) .....	38
26	H17-6 外記遺跡 (1/5,000) .....	39
27	H17-7 周知外 九丁分地区 (1/5,000) .....	40
28	H17-8 周知外 屋形原多地区 (1/5,000) .....	41
29	H17-9 大塚遺跡 (1/5,000) .....	42
30	H17-10 米多城跡 (1/5,000) .....	43
31	H17-11 周知外 井手口地区 (1/5,000) .....	44
32	平成 18 年度 確認調査地位位置図 (1/50,000) .....	47
33	H18-1 一本谷遺跡 (1/5,000) .....	48
34	H18-2 坊所一本谷遺跡 (1/5,000) .....	50
35	H18-3 西前牟田遺跡 (1/5,000) .....	51

Fig. 36	H18-4	周知外 井手口地区(1) (1/5,000)	52
37	H18-5	周知外 下坊所地区 (1/5,000)	53
38	H18-6	三上遺跡(1) (1/5,000)	54
39	H18-7	周知外 九丁分地区 (1/5,000)	55
40	H18-8	三上遺跡(2) (1/5,000)	57
41	H18-9	三上遺跡(3) (1/5,000)	58
42	H18-10	三上遺跡(4) (1/5,000)	59
43	H18-11	周知外 上坊所地区 (1/5,000)	60
44	H18-12	周知外 井手口地区(2) (1/5,000)	61
45	平成 19 年度	確認調査地位置図 (1/50,000)	65
46	H19-1	坊所二本谷遺跡(1) (1/5,000)	66
47	H19-2	青柳古墳群 (1/5,000)	67
48	H19-3	西前牟田遺跡(1) (1/5,000)	68
49	H19-4	坊所二本谷遺跡(2) (1/5,000)	69
50	H19-5	周知外 井手口地区 (1/5,000)	70
51	H19-6	外記遺跡 (1/5,000)	71
52	H19-7	樗寺遺跡 (1/5,000)	72
53	H19-8	周知外 東前牟田地区 (1/5,000)	73
54	H19-9	西前牟田遺跡(2) (1/5,000)	74
55	H19-10	三上遺跡 (1/5,000)	75
56	平成 20 年度	確認調査地位置図 (1/50,000)	79
57	H20-1	坊所五本谷遺跡 (1/5,000)	80
58	H20-2	周知外 錠地区 (1/5,000)	81
59	H20-3	切通遺跡 (1/5,000)	82
60	H20-4	樗寺遺跡 (1/5,000)	83
61	H20-5	三上遺跡(1) (1/5,000)	84
62	H20-6	三上遺跡(2) (1/5,000)	85
63	H20-7	周知外 下津毛地区 (1/5,000)	86

## 表 目 次

Tab. 1	平成 16 年度	町内遺跡確認調査一覧表	10・11
2	平成 17 年度	町内遺跡確認調査一覧表	32
3	平成 18 年度	町内遺跡確認調査一覧表	46
4	平成 19 年度	町内遺跡確認調査一覧表	64
5	平成 20 年度	町内遺跡確認調査一覧表	78

報告書抄録

## 図 版 目 次

PL. 1	H16-1	坊所一本谷遺跡(1) .....	18
2	H16-2	三上遺跡(1) .....	15
3	H16-2	三上遺跡(1) .....	15
4	H16-3	周知外 下坊所地区 .....	16
5	H16-4	坊所一本谷遺跡(2) .....	17
6	H16-5	青柳古墳群 .....	18
7	H16-6	四本谷遺跡 .....	19
8	H16-7	三上遺跡(2) .....	20
9	H16-8	杉寺遺跡 .....	21
10	H16-9	船石遺跡 .....	22
11	H16-10	三上遺跡(3) .....	23
12	H16-11	坊所一本谷遺跡(3) .....	24
13	H16-12	坊所一本谷遺跡(4) .....	25
14	H16-13	大塚遺跡 .....	26
15	H16-14	周知外 下津毛地区(1) .....	27
16	H16-15	周知外 下津毛地区(2) .....	28
17	H16-16	外記遺跡 .....	29
18	H17-1	三上遺跡(1) .....	34
19	H17-2	四本谷遺跡(1) .....	35
20	H17-3	五本谷遺跡 .....	36
21	H17-4	三上遺跡(2) .....	37
22	H17-5	四本谷遺跡(2) .....	38
23	H17-6	外記遺跡 .....	36
24	H17-7	周知外 九丁分地区 .....	40
25	H17-8	周知外 屋形原多地区 .....	41
26	H17-9	大塚遺跡 .....	42
27	H17-10	米多城跡 .....	43
28	H17-11	周知外 井手口地区 .....	44
29	H18-1	一本谷遺跡 .....	44
30	H18-2	坊所一本谷遺跡 .....	49
31	H18-3	西前牟田遺跡 .....	51
32	H18-3	西前牟田遺跡 .....	51
33	H18-4	周知外 井手口地区(1) .....	52
34	H18-5	周知外 下坊所地区 .....	53
35	H18-6	三上遺跡(1) .....	54

PL. 36	H18-7	周知外 九丁分地区	56
37	H18-7	周知外 九丁分地区	56
38	H18-8	三上遺跡(2)	57
39	H18-9	三上遺跡(3)	58
40	H18-10	三上遺跡(4)	59
41	H18-11	周知外 上坊所地区	60
42	H18-12	周知外 井手口地区(2)	61
43	H19-1	坊所二本谷遺跡(1)	66
44	H19-2	青柳古墳群	67
45	H19-3	西前牟田遺跡(1)	68
46	H19-4	坊所二本谷遺跡(2)	69
47	H19-5	周知外 井手口地区	70
48	H19-6	外記遺跡	71
49	H19-7	樗寺遺跡	72
50	H19-8	周知外 東前牟田地区	73
51	H19-9	西前牟田遺跡(2)	74
52	H19-10	三上遺跡	75
53	H20-1	坊所五本谷遺跡	80
54	H20-2	周知外 碓地区	81
55	H20-3	切通遺跡	82
56	H20-4	樗寺遺跡	83
57	H20-5	三上遺跡(1)	84
58	H20-6	三上遺跡(2)	85
59	H20-7	周知外 下津毛地区	86

# I. 上峰町の位置と環境

## 1. 上峰町の位置 (Fig. 1)

佐賀県三養基郡上峰町は、佐賀県東部の穀倉地帯である佐賀平野のほぼ中央、三養基郡の西端に位置しており、東部は同郡みやき町（旧中原町・旧北茂安町）と、南部は同郡みやき町（旧三根町）と、西部は神埼郡吉野ヶ里町（旧東春振村・旧三田川町）と境を接している。また、この神埼郡との境界は、古代以来の三根郡との郡界を踏襲しており、現在も町のほぼ中央を東西に横断する国道34号線付近の旧三田川町と境を接する地区は郡境と呼称されている。

鳥栖市から佐賀郡大和町に至る佐賀県東部には、北部に背振山地、その南麓に発達する洪積世丘陵、さらに南部には有明海へと続く沖積平野が展開するという、変化に富んだ地形が発達している。なかでも、山麓部から沖積平野部へ移行する部分に発達する洪積世丘陵は、山麓部に源を発し有明海へと南流する大小の河川によって浸食され北から南へ延びる舌状を呈した段丘を数多く形成している。そして、これらの段丘は古くから人々の生活の場として利用され、段丘上には数多くの遺跡が分布し、遺跡数、内容ともに県内でも有数の地域となっている。

そのようななか、南北に細長い町域をもつ上峰町においても、北部に山麓部、中央部に洪積世丘陵部、南部に沖積平野部と、この佐賀県東部の特徴的な地形が展開しており、とくに中央部に発達する洪積世丘陵地域を中心に遺跡の分布が知られ、古くから「遺跡の宝庫」と呼ばれてきた。

## 2. 歴史的環境 (Fig. 1)

上峰町を中心に佐賀県東部の遺跡を概観すると、前述のとおり、山麓部から洪積世丘陵部におよぶ一帯が古くから人々の生活の舞台となっており、山麓部及び各段丘上には、現在、遺跡の存在が知られ、県内においてもとくに弥生時代遺跡を中心に遺跡の分布密度が高い地域となっている。沖積地を望む丘陵部のほとんどが、各時代の集落あるいは墓域として占有され、とりわけ、弥生時代以降の遺跡を縄文時代以前の遺跡と比較すると、量的にも、質的にも爆発的に増加、充実する。銅鐸の鋳型を出土した鳥栖市安永田遺跡<sup>1)</sup>、約400基の甕棺墓が検出された中原町飯方遺跡<sup>2)</sup>、埋納された12本の銅矛を出土した北茂安町検見谷遺跡<sup>3)</sup>、甕棺墓から船載鏡を出土した神埼郡東春振村三津永田遺跡<sup>4)</sup>、近年の工業団地建設に先立つ調査で貴重な遺構、遺物が検出された神埼郡の神埼・三田川・東春振の2町1村にまたがる吉野ヶ里遺跡<sup>5)</sup> など多くの著名な集落遺跡、墳墓群が知られ弥生時代の「タニ」あるいは「ムラ」単位の集団の存在が想定されるに至っている。このようななか、南北約12km、東西約3kmと南北に細長い町域を持つ本町においても同様に、町の北部から中央部を占める洪積世段丘上に弥生時代を中心に各時代の遺跡が分布している。

先土器時代の遺跡についてみると、各段丘で層序が異なる本地域においては本格的な調査がなされていないのが現状で、断片的な遺物の出土、採取にとどまっている。町内では、平成4年度の県営農業基盤整備事業に伴う八藤遺跡の調査において細石刃1点とこの時期のものと考えられる石器類が少量出土しているが、これが発掘調査における主な出土例である<sup>6)</sup>。周辺地域では、神埼郡三田川町との境界に位置する二塚山丘陵の三田川町側からナイフ形石器の採取例が報告されている<sup>7)</sup>。また、平成5年度の県営農業基盤整備事業に伴う八藤遺跡下層における阿蘇4火砕流跡と埋没林に係る調査において、先土器時代の年代示標となっている始良-Tn火山灰(AT)の含有ピークが、通常の丘陵上の埋蔵文化財調査において遺構検出面としている「地山」の表層を構成する黄褐色風積土層の最上部付近、アカホヤ含有層のやや下部にて検出されている<sup>8)</sup>。



- |            |              |             |             |              |             |
|------------|--------------|-------------|-------------|--------------|-------------|
| 上総町        | 12 栗六本谷遺跡    | 24 坊西遺跡     | 36 山田蔵曹田出土地 | 47 西澤本遺跡     | 神城町         |
| 1 奥の細古墳群   | 13 栗土島跡      | 25 經寺遺跡     | 37 山田古墳群    | 48 定通谷遺跡     | 56 志波原六本谷遺跡 |
| 2 鏡西山山城    | 14 八尋遺跡      | 26 杉寺遺跡     | 38 久保古墳     | 49 定通谷前方後円墳  | 57 伊勢塚前方後円墳 |
| 3 二本柳古墳群   | 15 二塚山遺跡     | 27 坊所二本松遺跡  | 39 八幡社遺跡    | 50 大塚古墳      | 58 青柳遺跡     |
| 4 鏡西山南麓古墳群 | 16 五本谷遺跡     | 28 坊所三本松遺跡  | 40 兼原遺跡     | 51 東原藤原出土遺跡  | 59 西石動古墳群   |
| 5 堀三本松遺跡   | 17 船石遺跡      | 29 菅の塚遺跡    | 41 堀方遺跡     | 52 三徳町       | 60 船場ヶ谷遺跡   |
| 6 熊形原古墳群   | 18 船石南遺跡     | 30 西原中津遺跡   | 42 堀方前方後円墳  | 53 三田川町      | 61 三津太田遺跡   |
| 7 谷蔵古墳群    | 19 坂邊遺跡      | 31 美多純跡     | 43 堀方原遺跡    | 54 吉野ヶ原丘陵遺跡群 | 62 西石動遺跡    |
| 8 堀三本柳遺跡   | 20 一本谷遺跡     | 32 前中田遺跡    | 44 ドンドン古遺跡  | 55 下中社遺跡     | 63 松原遺跡     |
| 9 青柳古墳群    | 21 坊所一本谷遺跡   | 33 加茂橋遺跡群   | 45 町南遺跡     | 64 平上塚寺跡     | 65 横田遺跡     |
| 10 野立古墳群   | 22 上のひょうろ屋古墳 | 34 江越館跡     | 46 天神遺跡     |              |             |
| 11 屋形原遺跡   | 23 百原原古墳群    | 35 一ノ橋渡原古墳群 |             |              |             |

Fig. 1 上総町町内遺跡及び周辺遺跡 (1/50,000)

縄文時代になると、中原町香田遺跡<sup>9</sup>や東春振村戦場ヶ谷遺跡<sup>10</sup>などが出現する。町内においても、これまで町北部の丘陵部から土器や石器が、耕作や先覚者の遺跡の表面観察などによって断片的に出土、採取されていたが、近年の上峰北部農業基盤整備事業に伴う発掘調査の結果、平成元年度の船石遺跡11区<sup>11</sup>、平成2年度から5年度にわたり実施した八藤丘陵の調査<sup>12</sup>において、遺構や遺物がまとまって検出されており、今後の調査例の増加が期待されている。

弥生時代になると、遺跡の数や規模、その内容が飛躍的に増加、充実することは先に触れたが、早くから『魏志倭人伝』の「弥奴国」の所在地を佐賀平野東部、なかでも三養基郡西部の旧三根郡にあてる論考が行われてきたことは周知のことである。旧三根郡に所属する上峰町においても、丘陵部のほとんどにこの時期の遺跡が展開している。しかし、町の南部や中央部の米多地区、坊所地区の丘陵部は、中世以降集落として発達し、早くから宅地化が進み、本格的な発掘調査の例に乏しく、わずかに再開発に伴い部分的に小規模の発掘調査が行われているに過ぎず、遺跡の詳細について把握できていないのが現状である。これに対して、町北部の大字堤地区では、近年の工業団地建設や農業基盤整備事業など大型開発に伴い広範囲かつ大規模な発掘調査が実施され、各遺跡から当時の社会の様子を知るうえで貴重な資料が得られている。町内の代表的な遺跡としては、甕棺墓から細形銅剣や貝剣を出土した切通遺跡<sup>13</sup>、神埼郡東春振村、三田川町にまたがる、佐賀県東部中核工業団地の建設に伴い甕棺墓、土墳墓など約300基が調査され、舶載鏡、小型倣製鏡をはじめとする貴重な副葬品を出土した二塚山遺跡<sup>14</sup>、佐賀県住宅供給公社の宅地造成に伴う調査で一集団の集落部分の全容が明らかになった一本谷遺跡<sup>15</sup>、地区運動公園整備に伴う調査で5世紀代の古墳とともに支石墓はじめ多数の甕棺墓が検出された船石遺跡<sup>16</sup>などが知られている。また、この度の県営農業基盤整備事業に伴う調査においても、船石遺跡<sup>17</sup>、船石南遺跡<sup>18</sup>、八藤遺跡<sup>19</sup>から住居址や甕棺墓などが多数検出されている。

古墳時代になると、この地域にも首長墓が出現する。初頭の時期には中原町坂方原遺跡<sup>20</sup>、上峰町五本谷遺跡<sup>21</sup>などにおいて方形周溝墓が営まれ、やがて中期にかけて鳥栖市から佐賀郡大和町に至る山麓や丘陵部に大型の前方後円墳が出現する。鳥栖市剣塚古墳<sup>22</sup>、中原町坂方古墳<sup>23</sup>、上峰町西南部から神埼郡三田川町にまたがる目遠原古墳群<sup>24</sup>、神埼郡神埼町伊勢塚古墳<sup>25</sup>、佐賀市鏡子塚古墳<sup>26</sup>、佐賀郡大和町船塚古墳<sup>27</sup>など佐賀県東部の代表的な古墳が築かれるようになる。さらに後期になると、現在長崎自動車道や県道佐賀川久保・鳥栖線が通る山麓部から丘陵部にまたがる一帯に小円墳を中心とした古墳が多数築かれ、それぞれが山麓部の根柢や谷あるいは丘陵を単位として後期古墳群を形成している。

後の『肥前風土記』にみえる三根郡・郷に属する当時の上峰町一帯は、『古事記』、『国造本紀』などの記事によれば応神天皇の曾孫にあたる「**仁**」なる人物が初代の米多国造として中央より下向した地域に比定され、その中心は、町西部の米多地区から神埼郡三田川町東部の一帯にあったと推定されている。町内の主要な古墳としては、郡妃女加を始祖とする米多国造一族の墳墓として、5世紀代後半に形成されたと考えられる上のびゅう塚（現在、陵墓参考地「郡妃女加王墓」宮内庁管轄）をはじめ無名塚、大塚、古船荷塚、稲荷塚などの前方後円墳ほかからなる目遠原古墳群<sup>28</sup>が知られていたが、戦前の陸軍飛行場建設の際に、唯一上のびゅう塚を残し他の古墳は簡単な発掘調査の後破壊されている。また町の北部の古墳としては、同じく5世紀代の古墳で、蛇行状鉄剣、蛇行状鉄矛を出土した船石天神宮境内の船石古墳1～3号墳<sup>29</sup>が知られている。古墳時代後期の古墳としては、町北部の鎮西山の周辺山麓部から高位段丘上にかけて、小円墳を主体とする谷渡、青柳、新立、奥の院、鎮西山南麓、屋形原などの古墳群が点在している。

一方、この時期の集落は、神埼郡三田川町下中杖遺跡<sup>30</sup>、同郡東春振村下石動遺跡<sup>31</sup>などが知られているが、

亦生時代集落に比べ、遺跡そのものの数も少なく、調査例も少なくいまだに実態が明らかになっていないのが現状である。町内の遺跡をみても、当時の政治的中心であったと考えられる町南部の米多地区周辺における本格的な発掘調査の例がなく、今後の大きな課題といえる。

奈良・平安時代遺跡としては、三田川町下中杖遺跡、東脊振村辛上座寺跡<sup>32)</sup>、霊仙寺跡<sup>33)</sup>などが著名であるが、この時期の遺跡についてもまともな調査例が少なく、実態はあまり解明されていない。当時の遺構として大規模なものは、佐賀平野に敷かれた条里制の遺構が上げられ、早くから地名などから条里の復元が試みられ、現在ではほとんどの条里が復元されている。また、大宰府から肥前国府へ通じる官道の調査も進み、近年部分的な発掘調査が行われている。

町内では堤土塁跡<sup>34)</sup>や塔の塚庵寺跡<sup>35)</sup>などが奈良時代の遺跡として戦前から注目されている。町北部の堤地区の八藤丘陵と二塚山丘陵の間の谷底平野を遮断する形で築かれた堤土塁跡は、版築工法により築かれた福岡県の水城に似た施設＝「小水城」で、その築造目的が、大宰府の防衛施設であるとする説、灌漑用水確保のための溜池の堤防であるとする説など議論がなされてきたが、平成2年度からの土塁の東方に接する八藤丘陵の調査において、土塁東端から一直線に八藤丘陵を東方へ横断する道路側溝状の遺構が検出され<sup>36)</sup>、その性格付けにあらたに古代道の存在が想定されることとなった。また町南西部を占める日連原丘陵の南端部に位置する塔の塚庵寺跡は、百済系車弁軒瓦丸が発見され、戦前までは基壇、礎石の存在が知られていた奈良時代中期の寺院址で、日連原古墳群を営んだ米多国造一族の流れをくむ三根郡の郡司層が建立したものと推定されている。また、町内における奈良・平安時代の集落は、農業基盤整備事業に伴う調査や近年の大規模小売店舗建設に先立つ場所一本谷遺跡<sup>37)</sup>の調査などでまともな調査がなされたのみで、今後の調査例の増加が期待される。

中世になると、北部の山麓部の小峰に山城が築かれ、沖積平野部には環濠を伴う平城や集落が出現する。町内の中世城館址としては、北部の鎮西山山城、上峰町中央部の平野を臨む丘陵部に坊所城跡、町南部の平野部には米多城跡、前牟田城跡、江迎城跡、一の橋環濠集落、加茂環濠集落などが知られていた<sup>38)</sup>。しかし、昭和40年代後半からの圃場整備事業によって、これら平野部の遺構は、原状がほとんど失われてしまった。そのようななかで、町の親水公園として整備された江迎城跡では13世紀後半の龍泉窯系の青磁碗が建物跡ともに出土し、また、坊所城跡では16世紀後半の青花がそれぞれ出土している<sup>39)</sup>。

以上、上峰町を中心に佐賀県東部の遺跡を概観したが、まさにこの地域は遺跡の密度、その内容とも高く、遺跡の宝庫と呼ぶにふさわしい地域といえる。

## 註

- 1) 藤瀬慎博・石橋新次 『柚比遺跡群範囲確認調査第3年次概要報告書』 鳥栖市文化財調査報告書第30集 鳥栖市教育委員会 1980
- 2) 木下巧・天本洋一 『坂方遺跡』 佐賀県文化財調査報告書第30集 佐賀県教育委員会 1974
- 3) 七田忠昭 『検見谷遺跡』 北茂安町文化財調査報告書第2集 北茂安町教育委員会 1986
- 4) 金園丈夫・坪井清足・金園惣 『佐賀県三津水田遺跡』『日本農耕文化の生成』 日本考古学協会 1961
- 5) 七田忠昭 『吉野ヶ里』 佐賀県文化財調査報告書第113集 佐賀県教育委員会 1992
- 6) 原田大介 『八藤遺跡Ⅲ』 上峰町文化財調査報告書第16集 上峰町教育委員会 1999
- 7) 七田忠志 『原始』『上峰村史』 上峰村 1979
- 8) 下山正一・西田民雄 「Ⅱ. 佐賀県上峰町周辺の地形と地質」『佐賀平野の阿蘇火砕流と埋没林』 上峰町文化財調査報告書第11集 上峰町教育委員会 1994
- 9) 高瀬哲郎・堤安信・久保伸洋 『香田遺跡』『香田遺跡』 九州横断自動車道関係埋蔵文化財発掘調査報告書2 佐賀県文化財調査報告書第57集 佐賀県教育委員会 1981

- 10) 七田忠志 「佐賀県戦場ヶ谷遺跡」『史前学雑誌』 6-2・4 1934
- 11) 原田大介 『船石遺跡V』 上峰町文化財調査報告書第12集 上峰町教育委員会 1995
- 12) 原田大介 『八藤遺跡Ⅱ・堤土塁跡Ⅱ』 上峰町文化財調査報告書第14集 上峰町教育委員会 1998  
前出 (6)
- 13) 金岡丈夫・金岡恕・原口正三 「佐賀県切通遺跡」『日本農耕文化の生成』 日本考古学協会 1961
- 14) 高島忠平・七田忠昭 「二塚山遺跡」『二塚山』 佐賀県文化財調査報告書第46集 佐賀県教育委員会 1979
- 15) 七田忠昭 『一本谷遺跡』 上峰村文化財調査報告書 上峰村教育委員会 1983
- 16) 七田忠昭 『船石遺跡』 上峰村文化財調査報告書 上峰村教育委員会 1983
- 17) 鶴田浩二・原田大介 『船石遺跡Ⅱ図録編』 上峰村文化財調査報告書第6集 上峰村教育委員会 1988  
鶴田浩二・原田大介 『船石遺跡Ⅱ本文編』 上峰村文化財調査報告書第7集 上峰村教育委員会 1989  
原田大介 『船石遺跡Ⅲ』 上峰町文化財調査報告書第8集 上峰町教育委員会 1990  
原田大介 『船石遺跡Ⅳ』 上峰町文化財調査報告書第9集 上峰町教育委員会 1991
- 18) 原田大介 『船石南遺跡Ⅰ』 上峰町文化財調査報告書第21集 上峰町教育委員会 2002  
原田大介 『船石南遺跡Ⅱ』 上峰町文化財調査報告書第22集 上峰町教育委員会 2002
- 19) 原田大介 『八藤遺跡Ⅰ』 上峰町文化財調査報告書第13集 上峰町教育委員会 1997
- 20) 木下巧地 『姫方原遺跡』 佐賀県文化財調査報告書第33集 佐賀県教育委員会 1976
- 21) 木下 巧・七田忠昭 「五本谷遺跡」『二塚山』 佐賀県文化財調査報告書第46集 佐賀県教育委員会 1979
- 22) 石橋新次 『劍塚前方後円墳』 鳥栖市文化財調査報告書第22集 鳥栖市教育委員会 1984
- 23) 前出 (2)
- 24) 松尾慎作 「日達原古墳群調査報告」『佐賀県史蹟名勝天然記念物調査報告』 第9輯 佐賀県教育委員会 1950
- 25) 木下之治 「古代国家の形成」『佐賀県史』 佐賀県 1968
- 26) 木下之治編 『鏡子塚』 佐賀市教育委員会 1976
- 27) 松尾慎作 『佐賀県考古大観』 祐徳博物館 1959
- 28) 前出 (24)
- 29) 前出 (16)
- 30) 七田忠昭・高山久美子・西田和己 『下中杖遺跡』 佐賀県文化財調査報告書第64集 佐賀県教育委員会 1980
- 31) 高瀬哲郎他 「下石動遺跡」『下石動遺跡』 九州横断自動車道開保理継文化財発掘調査報告書 (6) 佐賀県文化財調査報告書第86集 佐賀県教育委員会 1987
- 32) 松尾慎作 「東脊振村上庭寺跡の調査」『佐賀県史蹟名勝天然記念物調査報告』 第6輯 佐賀県 1936
- 33) 田平徳栄他 『雲仙寺跡』 東脊振村文化財調査報告書第4集 東脊振村教育委員会 1980
- 34) 高島忠平・萩一義 『堤土塁跡』 上峰村文化財調査報告書 上峰村教育委員会 1978
- 35) 松尾慎作 「塔の塚庵寺址」『佐賀県史蹟名勝天然記念物調査報告』 第7輯 佐賀県 1940
- 36) 前出 (12)  
原田大介 『八藤遺跡Ⅲ』 上峰町文化財調査報告書第16集 上峰町教育委員会 1999
- 37) 平成5、6年度、上峰町教育委員会調査、整理中
- 38) 米倉二郎 「中世」『上峰村史』 上峰村 1979
- 39) 原田大介 『坊所城跡』 上峰町文化財調査報告書第10集 上峰町教育委員会 1992

## Ⅱ. 調査の概要

### 1. 調査に至る経緯

上峰町教育員会では、平成元年度より、国庫補助事業の適用を受け、埋蔵文化財保護と開発との調整を図るため開発行為に伴い町内遺跡について事前の確認調査を実施してきた。民間あるいは公共機関等が主体となって実施される町内における各種開発行為について事前に協議を行い、周知の埋蔵文化財包蔵地の内外にかかわらず、これまでに埋蔵文化財発掘調査歴がない土地については、開発面積や工法等の制約がない限り、開発主体者等に事前の確認調査の実施にむけた協力の要請を行っている。

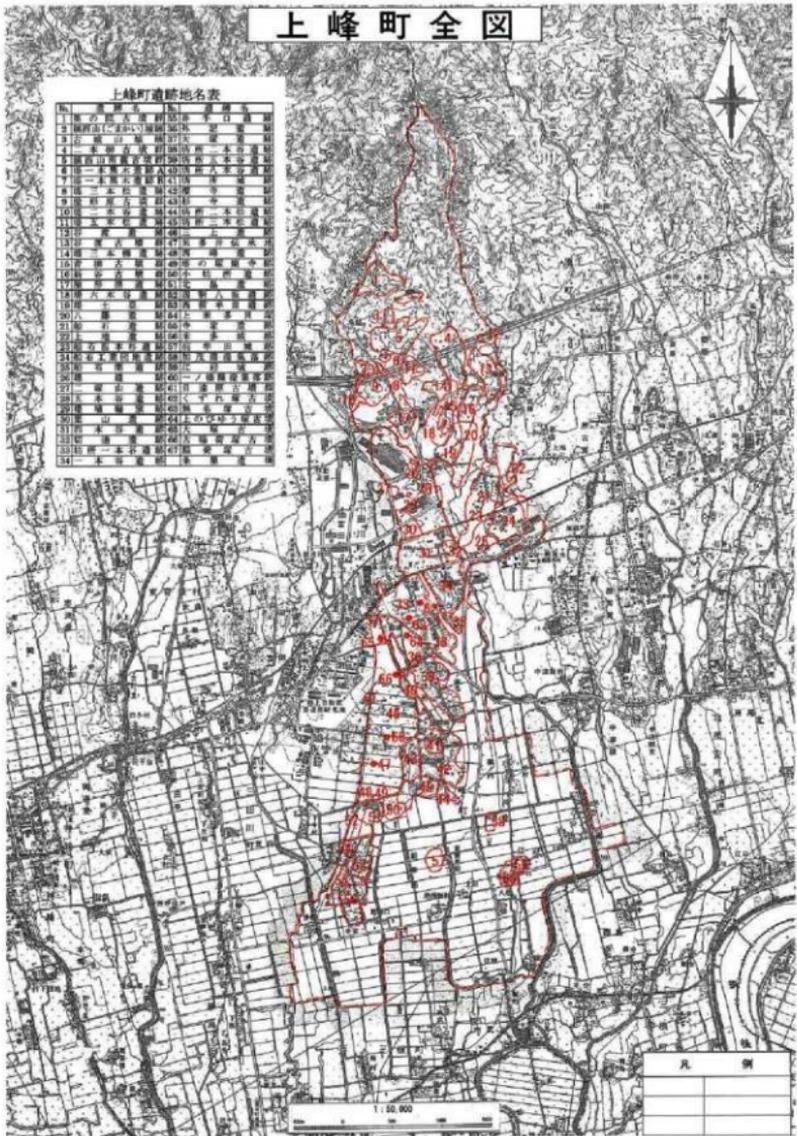
### 2. 調査の方法

確認調査の方法は、開発予定地に面積的、地形的な制約がない場合、10m×3mの試掘溝により地下の遺構・遺物の有無を確認することとしている。図上で開発予定範囲全体に10mのメッシュを組み、このメッシュに10m×3mの試掘溝を一マスおきに市松模様状に設定して、試掘溝の配置計画を作成している。この配置計画をもとに現地で試掘溝を設定し、調査を実施している。

また、開発面積に対する試掘面積の割合は、事前に図上で試掘溝を設定する時点ではおおむね開発面積の10%を目途としているものの、実際の調査では現地の種々の制約により、試掘溝の規模、配置等は臨機応変な対応を採ることも多く、試掘面積を縮小せざるを得ない場合も少なくはない。

各試掘溝の掘削については、遺構検出面までの掘削には可能な限り重機を使用しているが、重機が使用できない場合、包含層や遺構の掘り下げなどそれ以上の精査が必要な場合などは作業員の人力により掘削を行っている。遺構などが検出された試掘溝については、適宜略測を行い、縮尺1/100程度の平面図、縮尺1/20程度の土層断面図を作成し、フィルムカメラによる写真撮影を行い記録としている。作業終了後は、原則として試掘溝は埋め戻しを行い原状への復旧を図っている。

# 上峰町全図



上峰町遺跡地名表

No.	遺跡名	所在地
1	上峰町遺跡	上峰町
2	上峰町遺跡	上峰町
3	上峰町遺跡	上峰町
4	上峰町遺跡	上峰町
5	上峰町遺跡	上峰町
6	上峰町遺跡	上峰町
7	上峰町遺跡	上峰町
8	上峰町遺跡	上峰町
9	上峰町遺跡	上峰町
10	上峰町遺跡	上峰町
11	上峰町遺跡	上峰町
12	上峰町遺跡	上峰町
13	上峰町遺跡	上峰町
14	上峰町遺跡	上峰町
15	上峰町遺跡	上峰町
16	上峰町遺跡	上峰町
17	上峰町遺跡	上峰町
18	上峰町遺跡	上峰町
19	上峰町遺跡	上峰町
20	上峰町遺跡	上峰町
21	上峰町遺跡	上峰町
22	上峰町遺跡	上峰町
23	上峰町遺跡	上峰町
24	上峰町遺跡	上峰町
25	上峰町遺跡	上峰町
26	上峰町遺跡	上峰町
27	上峰町遺跡	上峰町
28	上峰町遺跡	上峰町
29	上峰町遺跡	上峰町
30	上峰町遺跡	上峰町
31	上峰町遺跡	上峰町
32	上峰町遺跡	上峰町
33	上峰町遺跡	上峰町
34	上峰町遺跡	上峰町

Fig. 2 上峰町遺跡地図 (1/50,000)



### Ⅲ. 平成16年度の調査

Tab.1 平成16年度 町内遺跡確認調査一覧表

No	遺跡名	所在地	原因者	事業内容	工事面積(m <sup>2</sup> )	調査面積(m <sup>2</sup> )	確認調査時期	確認調査結果	調査後の措置	備考
1	坊所一本谷遺跡(1)	上峰町大字坊所字七本谷 1570番地12、1570番地171、 上峰町大字坊所字二本谷 2508番地2	丹場建設株式会社佐賀営業所	集合住宅建設工事	1,634	70	平成16年4月23日	遺構・遺物は検出されなかった。	工事実施済。	
2	三上遺跡(1)	上峰町大字坊所字西峰地内	上峰町	町道建設工事	3,080	190	平成16年4月26日 平成16年4月28日 平成16年4月29日	住居址・土壇・ピットなどが検出され、住居址覆土中に土師器・須恵器片が散見された。	住居址について本調査を実施後、工事実施済。	
						10	平成16年5月21日	遺構・遺物は検出されなかった。	工事実施済。	
3	岡知外下坊所地区	上峰町大字坊所字下坊所 1787番地1	有限会社シテイ開発	分譲宅地造成工事	2,258	90	平成16年5月18日	遺物・遺構は検出されなかった。	工事実施済。	
4	坊所一本谷遺跡(2)	上峰町大字坊所字一本谷 2514番地52の一部	株式会社東海レジャー	遊技場建設工事	2,058	240	平成16年5月19日 平成16年5月20日	遺構・遺物は検出されなかった。	工事実施済。	開発予定地16,259m <sup>2</sup> の内、建物部分を対象に確認調査を実施。
5	青柳古墳群	上峰町大字場字三本柳 3643番地1、3643番地2、 3643番地3、3643番地6、 3643番地7	個人	貸店舗建設工事	2,550	150	平成16年6月16日 平成16年6月17日	遺構・遺物は検出されなかった。	工事実施中。	
6	四本谷遺跡	上峰町大字場字四本谷 1940番地1	株式会社ホームマン	分譲宅地造成工事	9,120	850	平成16年6月28日 平成16年6月29日 平成16年6月30日 平成16年7月1日	遺構・遺物は検出されなかった。	工事実施済。	
7	三上遺跡(2)	上峰町大字坊所字西峰 2952番地1	九瀬セキスイハイム株式会社	分譲宅地造成工事	929	25	平成16年7月26日	遺構・遺物は検出されなかった。	工事実施済。	
8	杉寺遺跡	上峰町大字坊所字杉寺 1348番地	個人	共同住宅建設工事	687	60	平成16年7月26日	住居址・土壇・ピットなどが検出され、住居址覆土中に土師器・須恵器片が散見された。	工事実施済。	検出された遺物は盛土保存。
						40	平成16年9月16日 平成16年9月17日			スロープ設置工による掘削予定部分についての追加確認調査。検出された遺構は、掘削工の影響が及ばないことを確認し原状保存。

No	遺跡名	所在地	原因者	事業内容	工事面積(m <sup>2</sup> )	調査面積(m <sup>2</sup> )	確認調査時期	確認調査結果	調査後の措置	備考
9	船石遺跡	上埴町大字建字三本杉 620番地1, 621番地1, 622番地, 623番地, 624番地1, 624番地2, 625番地	個人	福祉施設建設工事	2,087	100	平成16年11月9日	一部の試掘溝においてピットが検出されたが、遺物は検出されなかった。	造成工事のみ実施済み。	検出された遺物は盛土保存。
10	三上遺跡(3)	上埴町大字坊所字三上 3261番地1	株式会社永代不動産	販売分譲住宅建設工事	2,919	240	平成16年11月10日	一部の試掘溝においてピットが検出されたが、遺物は検出されなかった。	工事実施中。	検出された遺物は盛土保存。
11	坊所一本谷遺跡(3)	上埴町大字坊所字二本谷 2505番地7, 2505番地8, 2511番地9	個人	共同住宅建設工事	610	40	平成16年12月7日	遺構・遺物は検出されなかった。	工事実施中。	
12	坊所一本谷遺跡(4)	上埴町大字坊所字七本谷 1588番地1	個人	駐車場造成工事	396	30	平成16年12月16日	住居址・土壁などが検出されたが、遺物は検出されなかった。	工事実施中。	検出された遺物は盛土保存。
13	大塚遺跡	上埴町大字坊所字大塚 1523番地1の一部	祐徳温泉株式会社	宿泊施設建設工事	267	23	平成16年12月20日	遺構・遺物は検出されなかった。	工事実施中。	
14	岡知外 下津毛地区(1)	上埴町大字坊所字下津毛 20番地1	個人	店舗用地造成工事	3,007	90	平成16年12月21日	遺構・遺物は検出されなかった。	工事未着手。	
15	岡知外 下津毛地区(2)	上埴町大字坊所字下津毛 8番地2の一部	個人	店舗用地造成工事	996	30	平成16年12月21日	遺構・遺物は検出されなかった。	工事未着手。	
16	外記遺跡	上埴町大字坊所字七本谷 1570番地8, 1570番地9, 1570番地10, 1570番地11	株式会社パラダイス	遊技場建設工事	12,517	948	平成17年3月2日 平成17年3月3日 平成17年3月4日	一部の試掘溝において溝跡・ピットが検出され、遺跡から瓦葺器片が出土した。	工事未着手。	検出された遺物の盛土保存について調整中。



Fig. 3 平成16年度 確認調査地位位置図 (1/50,000)

H16-1

遺跡名：坊所一本谷遺跡(1)

調査地：上峰町大字坊所字七本谷・二本谷

工事内容：集合住宅建設工事

工事面積：1,634㎡

調査面積：70㎡

調査時期：平成16年4月23日

立地と環境：坊所一本谷遺跡は、上峰町大字坊所字一本谷・七本谷に所在し、町のほぼ中央部郡境

地区の目連原丘陵から下津毛・井手口地区へ延びる下津毛・井手口両丘陵の基部一帯に広がる古墳時代から奈良・平安時代に及ぶ集落遺跡である。調査対象地区は、上のびゅう塚古墳（都紀女加王墓）の東、遺跡の南部下津毛丘陵の標高20m付近に位置しており、すでに拓かれた更地となっていた。

遺構と遺物：遺構、遺物は検出されなかった。

調査後措置：工事実施。



Fig. 4 坊所一本谷遺跡(1) (1/5,000)



PL.1 作業状況

H16-2

遺跡名：三上遺跡(1)

調査地：上峰町大字坊所字西峰

工事内容：町道建設工事

工事面積：3,080㎡

調査面積：190㎡

調査時期：平成16年4月26日・28日・29日

立地と環境：三上遺跡は、町中南部の上峰町大字坊所字三上・西峰、大字前牟田字小坊所に所在し、目達原丘陵上に位置する縄文時代から中世に及ぶ集落遺跡である。調査対象地区は、目達原丘陵の中南部標高9m付近を東西に横断する幅員2m程度の未整備の農道であった。

遺構と遺物：奈良時代の住居址1軒・土壇1基・ピットなどが検出され、住居址の覆土中に土師器・須恵食行が散見された。

調査後措置：検出された住居址について本調査を実施、その後工事実施。



Fig. 5 三上遺跡(1) (1/5,000)



PL. 2 №18試掘溝 住居址検出状況



PL. 3 作業状況

H16-3

遺跡名：周知外 下坊所地区

調査地：上峰町大字坊所字下坊所

工事内容：分譲宅地造成工事工事

工事面積：2,265㎡

調査面積：90㎡

調査時期：平成16年5月18日

立地と環境：調査対象地区は、上峰町大字坊所字下坊所に所在し、町中南部の坊所丘陵南の沖積地、標高5m付近に位置し、水田として利用されていた。

遺構と遺物：遺構、遺物は検出されなかった。

調査後措置：工事実施。



Fig. 6 周知外 下坊所地区 (1/5,000)



PL. 4 作業状況

H16-4

遺跡名：坊所一本谷遺跡(2)

調査地：上峰町大字坊所字一本谷

工事内容：遊技場建設工事

工事面積：2,058㎡

調査面積：240㎡

調査時期：平成16年6月19日・20日

立地と環境：坊所一本谷遺跡は、上峰町大字坊所字一本

谷・七本谷に所在し、町のほぼ中央部郡境

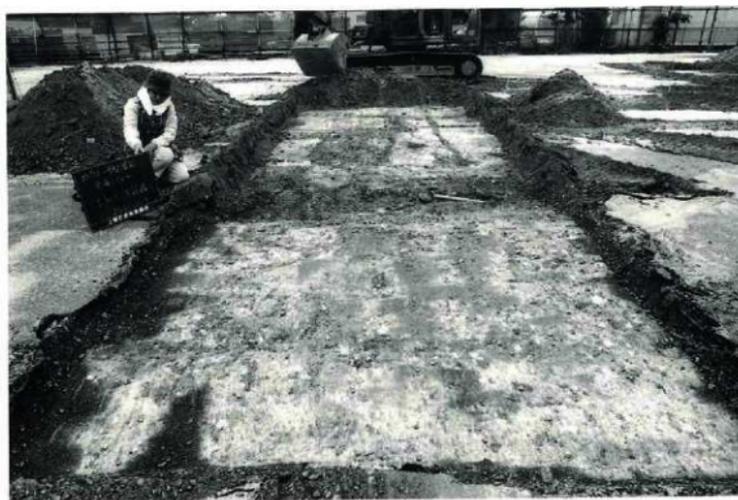
地区の目連原丘陵から下津毛・井手口地区へ延びる下津毛・井手口両丘陵の基部一帯に広がる古墳時代から奈良・平安時代に及ぶ集落遺跡である。調査対象地区は、国道34号線南の丘陵上、標高25m付近に位置しており、これまで建設資材置場として利用されていた。

遺構と遺物：遺構、遺物は検出されなかった。

調査後措置：工事実施。



Fig. 7 坊所一本谷遺跡(2) (1/5,000)



PL. 5 No.3試掘溝

H16-5

遺跡名：青柳古墳群

調査地：上峰町大字堤字一本柳

工事内容：貸店舗建設工事

工事面積：2,550㎡

調査面積：150㎡

調査時期：平成16年6月16日・17日

立地と環境：青柳古墳群は、上峰町大字堤字一本柳・六本谷に所在する小円墳を主体とする古墳

時代後期の古墳群で、町北部の鎮西山南麓から大字堤字六本谷地区へ派生する丘陵の尾根上に位置している。調査対象地区は、県道鳥栖川久保線北側の丘陵上、標高45m付近に位置しており、これまで水田として利用されてきた。

遺構と遺物：遺構、遺物は検出されなかった。

調査後措置：工事実施。



Fig. 8 青柳古墳群 (1/5,000)



PL.6 作業状況

H16-6

遺跡名：四本谷遺跡

調査地：上峰町大字堤字四本谷

工事内容：分譲宅地造成工事

工事面積：9,120㎡

調査面積：850㎡

調査時期：平成16年6月28日～7月1日

立地と環境：四本谷遺跡は、上峰町大字堤字四本谷に所

在する弥生時代の墳墓遺跡で、町中北部の

二塚山丘陵の南部に立地している。調査対象地区は、二塚山丘陵からJR長崎本線南へ延びる一支丘の先端部、標高18m～23m付近に位置しており、町営住宅跡地として更地となっていた。

遺構と遺物：遺構、遺物は検出されなかった。

調査後措置：工事実施。



Fig. 9 四本谷遺跡 (1/5,000)



PL. 7 作業状況

H16-7

遺跡名：三上遺跡(2)

調査地：上峰町大字坊所字西峰

工事内容：分譲宅地造成工事

工事面積：929㎡

調査面積：25㎡

調査時期：平成16年7月26日

立地と環境：三上遺跡は、町中南部の上峰町大字坊所字

三上・西峰、大字前半田字小坊所に所在し、

目達原丘陵上に位置する縄文時代から中世に及ぶ集落遺跡である。調査対象地区は、目達原丘陵の中南部、標高10m付近に位置しており、これまで畑として利用されていた。

遺構と遺物：遺構、遺物は検出されなかった。

調査後措置：工事实施。



Fig.10 三上遺跡(2) (1/5,000)



PL.8 作業状況

H16-8

遺跡名：杉寺遺跡

調査地：上峰町大字坊所字杉寺

工事内容：共同住宅建設工事

工事面積：687㎡

調査面積：100㎡

調査時期：平成16年7月26日・9月16日・17日

立地と環境：杉寺遺跡は、上峰町大字坊所字杉寺に所在

する弥生時代から中世に及ぶ集落遺跡で、

超中南部の現上坊所・下坊所の集落が立地する坊所丘陵の西部および三上地区の目達原丘陵東部に防って位置している。調査対象地区は、坊所丘陵の西部、標高10m付近の段丘上に位置しており、これまで畑として利用されていた。

遺構と遺物：奈良時代の住居址3軒、ピットなどが検出され、検出された住居址覆土中に土師器・須恵器片が散見された。

調査後措置：検出された遺構については工事の影響が及ばないことを確認し、工事実施。



Fig.11 杉寺遺跡 (1/5,000)



PL.9 遺構検出状況

H16-9

遺跡名：船石遺跡

調査地：上峰町大字堤字三本杉

工事内容：福祉施設建設工事

工事面積：2,087㎡

調査面積：160㎡

調査時期：平成16年11月9日

立地と環境：船石遺跡は、上峰町大字堤字三本杉・四本杉・一本谷・二本谷一带に所在し、町中北部の現船石集落が立地する船石丘陵上に位置する縄文時代から中世に及ぶ集落・墳墓遺跡である。

調査対象地区は、この船石丘陵東辺部、船石宿池西岸の標高27m付近に位置しており、これまで畑として利用されていた。

遺構と遺物：一部の試掘溝においてピットなどが検出されたが、遺物は出土しなかった。

調査後措置：検出された遺構については盛土保存し、土地造成工事のみ実施。



Fig.12 船石遺跡 (1/5,000)



PL.10 No.4試掘溝 遺構検出状況

H16-10

遺跡名：三上遺跡(3)

調査地：上峰町大字坊所字三上

工事内容：建売分譲住宅建設工事

工事面積：2,919㎡

調査面積：240㎡

調査時期：平成16年11月10日

立地と環境：三上遺跡は、町中南部の上峰町大字坊所字

三上・西峰、大字前傘田字小坊所に所在し、

目達原丘陵上に位置する縄文時代から中世に及ぶ集落遺跡である。調査対象地区は、目達原丘陵の北部、標高16m付近に位置しており、これまで畑として利用されていた。

遺構と遺物：一部の試掘溝においてピットなどが検出されたが、遺物は出土しなかった。

調査後措置：検出された遺構については盛土保存し、工事実施。



Fig.13 三上遺跡(3) (1/5,000)



PL.11 №3試掘溝 遺構検出状況

H16-11

遺跡名：坊所一本谷遺跡(3)

調査地：上峰町大字坊所字二本谷

工事内容：共同住宅建設工事

工事面積：510㎡

調査面積：40㎡

調査時期：平成16年12月7日

立地と環境：坊所一本谷遺跡は、上峰町大字坊所字一本谷・七本谷に所在し、町のはば中央部郡境

地区の目達原丘陵から下津毛・井手口地区へ延びる下津毛・井手口両丘陵の基部一帯に広がる古墳時代から奈良・平安時代に及ぶ集落遺跡である。調査対象地区は、遺跡南部の下津毛丘陵東斜面、標高19m付近に位置しており、すでに宅地として拓かれた更地であった。

遺構と遺物：遺構、遺物は検出されなかった。

調査後措置：工事実施。



Fig.14 坊所一本谷遺跡(3) (1/5,000)



PL.12 No.1試掘溝

H16-12

遺跡名：坊所一本谷遺跡(4)

調査地：上峰町大字坊所字七本谷

工事内容：駐車場造成工事

工事面積：396㎡

調査面積：30㎡

調査時期：平成16年12月16日

立地と環境：坊所一本谷遺跡は、上峰町大字坊所字一本谷・七本谷に所在し、町のほぼ中央部郡境

地区の目遠原丘陵から下津毛・井手口地区へ延びる下津毛・井手口両丘陵の基部一帯に広がる古墳時代から奈良・平安時代に及ぶ集落遺跡である。調査対象地区は、遺跡北部の郡境地区の丘陵基部、標高22m付近に位置しており、これまで畑として利用されていた。

遺構と遺物：奈良時代の住居址2軒・土塼1基などが検出されたが、遺物は出土しなかった。

調査後措置：検出された遺構については盛土保存し、工事実施。



Fig.15 坊所一本谷遺跡(4) (1/5,000)



PL.13 No.1試掘溝 遺構検出状況

H16-13

遺跡名：大塚遺跡

調査地：上峰町大字坊所字大塚

工事内容：宿泊施設建設工事

工事面積：267㎡

調査面積：23㎡

調査時期：平成16年12月20日

立地と環境：大塚遺跡は、上峰町大字坊所字大塚に所在

し、町のほぼ中央部郡境地区の目達原丘陵

上に立地する古墳時代の集落・墳墓遺跡である。調査対象地区は、遺跡北部の郡境地区の目達原丘陵基部、標高21m付近に位置しており、これまで公衆浴場に付帯する駐車場として利用されていた。

遺構と遺物：遺構・遺物は検出されなかった。

調査後措置：工事実施。



Fig.16 大塚遺跡 (1/5,000)



PL.14 作業状況

H16-14

遺跡名：周知外 下津毛地区(1)

調査地：上峰町大字坊所字下津毛

工事内容：店舗用地造成工事

工事面積：3,007㎡

調査面積：90㎡

調査時期：平成16年12月21日

立地と環境：調査対象地区は、上峰町大字坊所字下津毛

に所在し、町中央部の下津毛丘陵東方、切

通川西岸の氾濫原、標高9m付近に位置し、水田として利用されていた。

遺構と遺物：遺構・遺物は検出されなかった。

調査後措置：工事実施。



Fig.17 周知外 下津毛地区(1) (1/5,000)



PL.15 No.1試掘溝

H16-15

遺跡名：周知外 下津毛地区(2)

調査地：上峰町大字坊所字下津毛

工事内容：店舗用地造成工事

工事面積：990㎡

調査面積：30㎡

調査時期：平成16年12月21日

立地と環境：調査対象地区は、上峰町大字坊所字下津毛

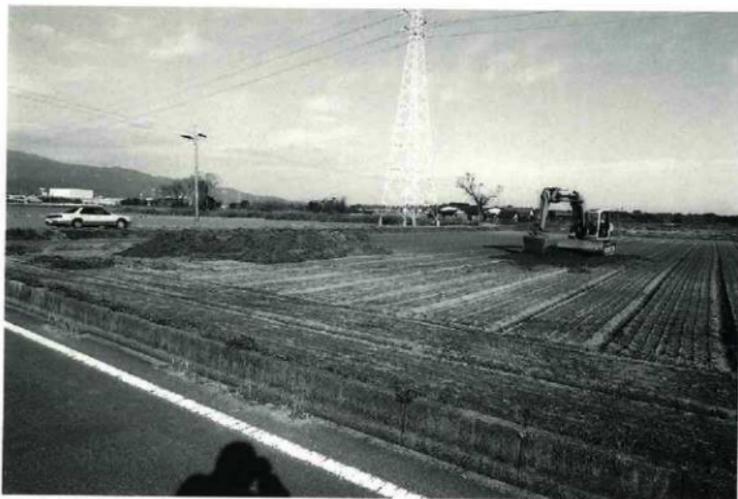
に所在し、町中央部の下津毛丘陵東方、切

通川西岸の氾濫原、標高9m付近に位置し、水田として利用されていた。

遺構と遺物：遺構・遺物は検出されなかった。



Fig.18 周知外 下津毛地区(2) (1/5,000)



PL.16 調査区全景

H16-16

遺跡名：外記遺跡

調査地：上峰町大字坊所字七本谷

工事内容：遊技場建設工事

工事面積：12,517㎡

調査面積：948㎡

調査時期：平成17年3月2日～4日

立地と環境：外記遺跡は、上峰町大字坊所字二本谷・七本谷に所在し、町のほぼ中央部都境地区の

目達原丘陵から下津毛地区へ延びる下津毛両丘陵の基部一帯に広がる弥生時代から古墳時代に及ぶ集落・墳墓遺跡である。調査対象地区は、下津毛丘陵の基部、上のびゅう塚古墳の南、標高18m付近に位置しており、これまで資材置場として利用されていた。

遺構と遺物：奈良時代の溝跡1条・ピットなどが検出され、検出された溝跡覆土中から須恵器片が出土した。

調査後措置：検出された遺構については盛土保存し、工事実施。



Fig.19 外記遺跡 (1/5,000)



PL.17 №24試掘溝 溝跡検出状況



#### IV. 平成17年度の調査

Tab.2 平成17年度 町内遺跡確認調査一覧表

No	遺跡名	所在地	原因者	事業内容	工事面積(m <sup>2</sup> )	調査面積(m <sup>2</sup> )	確認調査時期	確認調査結果	調査後の措置	備考
1	三上遺跡(1)	上峰町大字坊所字西峰 2828番地1	有限会社シデコ開発	分譲住宅造成工事	1,887	180	平成17年8月17日	住居址・土壌・ピット などが検出され、瓦 片が1点出土した。	本調査後工事実 施済。	分譲宅地内 の道路部分 について本 調査を実施。 宅地部分の 遺構につい ては盛土保 存。
2	因本谷遺跡(1)	上峰町大字宇田本谷 1907番地1	有限会社祥	福祉施設増設工事	1,448	130	平成17年6月28日	遺構・遺物は検出さ れなかった。	工事実施済。	
3	五本谷遺跡	上峰町大字宇田五本谷地内	株式会社ブリヂストン佐賀工	工場増築に伴う町道 付替え工事	1,450	70	平成17年8月29日	遺構・遺物は検出さ れなかった。	工事実施済。	既存工場敷 地184,922m <sup>2</sup> の内、町道付 替え部分を 対象に確認 調査を実施し た。
4	三上遺跡(2)	上峰町大字坊所字西峰 2786番地1, 2787番地1, 2788番地1	個人	工場及び住宅建設 工事	2,863	220	平成17年9月27日	住居址・土壌・溝跡・ ピットなどが検出さ れ、住居址覆土中に 土師器・須恵器片が 散見された。	検出された遺構の 保存について調 整中。	
5	因本谷遺跡(2)	上峰町大字宇田本谷 1903番地333	個人	共同住宅建設工事	764	70	平成17年10月7日	遺構・遺物は検出さ れなかった。	工事実施済。	
6	外記遺跡	上峰町大字坊所字七本谷 1570番地3, 1570番地5, 1574番地	株式会社パラダイス	遊技場付福祉車庫 造成工事	2,953	220	平成17年11月24日 平成17年11月25日 平成17年11月26日	遺構・遺物は検出さ れなかった。	工事実施済。	
7	周知外 九丁分地区	上峰町大字江迎地内	佐賀県	駅道改良工事	3,600	110	平成18年1月4日 平成18年1月5日 平成18年1月6日	遺構・遺物は検出さ れなかった。	工事実施済。	
8	周知外 屋形原地区	上峰町大字堤字三本黒木 4529番地119	佐賀県	県営かんがい排水 事業	332	24	平成18年1月16日	遺構・遺物は検出さ れなかった。	工事実施済。	
9	大塚遺跡	上峰町大字坊所地内	上峰町	下水道管路埋設工 事	109	10	平成18年2月2日	遺構・遺物は検出さ れなかった。	工事実施済。	
10	米多城跡	上峰町大字前平田字額 703番地16の一部	上峰町	下水道処理場増設工 事	447	35	平成18年2月9日	遺構・遺物は検出さ れなかった。	工事実施中。	
11	周知外 井手口地区	上峰町大字坊所字二本谷 2436番地1, 2436番地2, 2436番地4	株式会社坂口組	共同住宅建設工事	1,746	50	平成18年3月13日	遺構・遺物は検出さ れなかった。	工事未着手。	



Fig.20 平成17年度 確認調査地位位置図 (1/50,000)

H17-1

遺跡名：三上遺跡(1)

調査地：上峰町大字坊所字西峰

工事内容：分譲宅地造成工事

工事面積：1,887㎡

調査面積：180㎡

調査時期：平成17年5月17日

立地と環境：三上遺跡は、町中南部の上峰町大字坊所字

三上・西峰、大字前牟田字小坊所に所在し、

目達原丘陵上に位置する縄文時代から中世に及ぶ集落遺跡である。調査対象地区は、目達原丘陵の北部、標高9m付近に位置しており、これまで畑として利用されていた。

遺構と遺物：奈良時代の住居址2軒・土壇1基・ピットなどが検出され、検出された住居址覆土中から布目瓦片が出土した。

調査後措置：検出された遺構については、宅地内の道路部分について本調査を実施、宅地部分は盛土保存。工事実施。



Fig.21 三上遺跡(1) (1/5,000)



PL.18 No.5試掘溝 遺構検出状況

H17-2

遺跡名：四本谷遺跡(1)

調査地：上峰町大字堤字四本谷

工事内容：福祉施設建設工事

工事面積：1,448㎡

調査面積：130㎡

調査時期：平成17年6月28日

立地と環境：四本谷遺跡は、上峰町大字堤字四本谷に所

在する弥生時代の墳墓遺跡で、町中北部の

二塚山丘陵の南部に立地している。調査対象地区は、二塚山丘陵の南部、国道84号線北側の標高24m付近に位置しており、すでに拓かれた更地となっていた。

遺構と遺物：遺構・遺物は検出されなかった。

調査後措置：工事実施。



Fig.22 四本谷遺跡(1) (1/5,000)



PL.19 調査区全景

### H17-3

遺跡名：五本谷遺跡

調査地：上峰町大字堤字五本谷

工事内容：工場増築に伴う町道付替え工事

工事面積：1,450㎡

調査面積：70㎡

調査時期：平成12年8月28日

立地と環境：五本谷遺跡は町北部の上峰町大字堤字五本谷に所在し、二塚山丘陵上に位置する弥生

時代から古墳時代にかけての墳墓遺跡である。町北部の山麓部から本町堤地区に派生する二塚山丘陵は先年の工業団地造成に伴い弥生時代から古墳時代にかけての墳墓が多数検出されており、一部が佐賀県史跡二塚山五本谷遺跡として保存されている。調査対象地区は、現集落西側の二塚山丘陵中央部、の北に隣接する標高30m～34m付近に位置しており、これまで工場に付帯するグラウンドの一部として利用されていた。

遺構と遺物：遺構・遺物は検出されなかった。

調査後措置：工事実施。



Fig.23 五本谷遺跡 (1/5,000)



PL.20 調査区全景

H17-4

遺跡名：三上遺跡(2)

調査地：上峰町大字坊所字西峰

工事内容：工場および住宅建設工事

工事面積：2,863㎡

調査面積：220㎡

調査時期：平成17年9月27日

立地と環境：三上遺跡は、町中南部の上峰町大字坊所字

三上・西峰、大字前幸田字小坊所に所在し、

目連原丘陵上に位置する縄文時代から中世に及ぶ集落遺跡である。調査対象地区は、目連原丘陵の中央部、標高10m付近に位置しており、これまで畑として利用されていた。

遺構と遺物：奈良時代の住居址1軒・土壇1基・溝跡1条・ピットなどが検出され、検出された住居址覆土中に土師器・須恵器片が散見された。

調査後措置：検出された遺構については盛土保存、工事実施。



Fig.24 三上遺跡(2) (1/5,000)



PL.21 No.2試掘溝 遺構検出状況

H17-5

遺跡名：四本谷遺跡(2)

調査地：上峰町大字堤字四本谷

工事内容：共同住宅建設工事

工事面積：764㎡

調査面積：70㎡

調査時期：平成17年10月7日

立地と環境：四本谷遺跡は、上峰町大字堤字四本谷に所在する弥生時代の墳墓遺跡で、町中北部の

二塚山丘陵の南部に立地している。調査対象地区は、二塚山丘陵の南部、国道34号線北側の標高23m付近に位置しており、すでに宅地として造成され更地となっていた。

遺構と遺物：遺構・遺物は検出されなかった。

調査後措置：工事実施。



Fig.25 四本谷遺跡(2) (1/5,000)



PL.22 No.2試掘溝

H17-6

遺跡名：外記遺跡

調査地：上峰町大字坊所字七本谷

工事内容：遊技場付帯駐車場建設工事

工事面積：2,953㎡

調査面積：220㎡

調査時期：平成17年11月24日～26日

立地と環境：外記遺跡は、上峰町大字坊所字二本谷・七

本谷に所在し、町のほぼ中央部郡境地区の

日連原丘陵から下津毛地区へ延びる下津毛両丘陵の基部一帯に広がる弥生時代から古墳時代に及ぶ集落・墳墓遺跡である。調査対象地区は、下津毛丘陵の基部、上のびゅう塚古墳の南、標高18m付近に位置しており、これまで資材置場として利用されていた。

遺構と遺物：遺構・遺物は検出されなかった。

調査後措置：工事実施。



Fig.26 外記遺跡 (1/5,000)



PL.23 調査区全景

H17-7

遺跡名：周知外 九丁分地区

調査地：上峰町大字江迎

工事内容：県道改良工事

工事面積：3,600㎡

調査面積：110㎡

調査時期：平成18年1月4日～6日

立地と環境：調査対象地区は、町南東部の大字江迎、九

丁分地区、切通川西岸の沖積地、標高4m

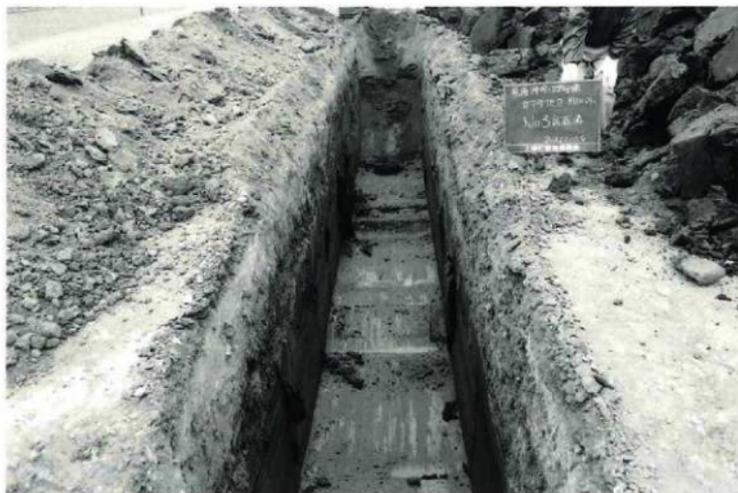
付近に位置しており、これまで水田として利用されていた。

遺構と遺物：遺構・遺物は検出されなかった。

調査後措置：工事実施。



Fig.27 周知外 九丁分地区 (1/5,000)



PL.24 No.3試掘溝

H17-8

遺跡名：周知外 屋形原地区

調査地：上峰町大字堤字三本黒木

工事内容：県営かんがい排水工事

工事面積：332㎡

調査面積：24㎡

調査時期：平成18年1月16日

立地と環境：調査対象地区は、町北部の大字堤、屋形原地区に所在し、鎮西山一帯の山麓から南へ

派生する一尾根上、標高70m付近に位置しており、これまで蜜柑畑として利用されていた。

遺構と遺物：遺構・遺物は検出されなかった。

調査後措置：工事実施。



Fig.28 周知外 屋形原地区 (1/5,000)



PL.25 調査区全景

H17-9

遺跡名：大塚遺跡

調査地：上峰町大字坊所字大塚

工事内容：下水道管路埋設工事

工事面積：109㎡

調査面積：10㎡

調査時期：平成18年2月2日

立地と環境：大塚遺跡は、上峰町大字坊所字大塚に所在し、町のはほぼ中央部郡境地区の目連原丘陵

上に立地する古墳時代の集落・墳墓遺跡である。調査対象地区は、遺跡北部の郡境地区の目連原丘陵基部、標高21m付近に位置しており、宅地として利用されていた。

遺構と遺物：遺構・遺物は検出されなかった。

調査後措置：工事実施。

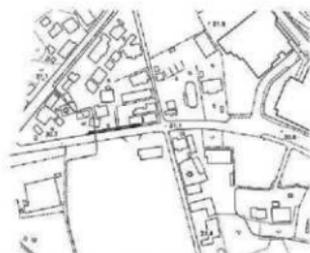


Fig.29 大塚遺跡 (1/5,000)



PL.26 作業状況

H17-10

遺跡名：米多城跡

調査地：上峰町大字前牟田字七反田・館

工事内容：下水処理場増設工事

工事面積：447㎡

調査面積：35㎡

調査時期：平成18年2月9日

立地と環境：米多城跡は、上峰町大字前牟田字七反田・

屋敷の坪・館・姥井鶴・一本桜一帯に所在

する中世城館跡で、町南西部の目達原丘陵南端部が沖積地に没する現米多集落南部、標高3m付近に位置している。調査対象地区は、米多城跡の東部の一面に当たり、旧状は濠溝がめぐる島屋敷で、これまで地区集会施設に伴うゲートボール場として利用されていたが、平成4年に下水終末処理場が建設された。

遺構と遺物：遺構・遺物は検出されなかった。

調査後措置：工事実施。

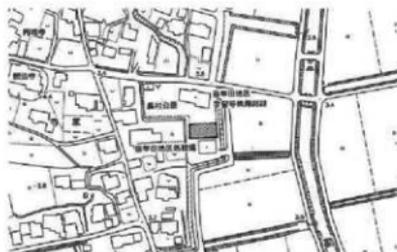


Fig.30 米多城跡 (1/5,000)



PL.27 調査区全景

H17-11

遺跡名：周知外 井手口地区

調査地：上峰町大字坊所字二本谷

工事内容：共同住宅建設工事

工事面積：1,746㎡

調査面積：50㎡

調査時期：平成18年3月13日

立地と環境：調査対象地区は、町中央部の大字坊所、井手口地区に所在する。町中央部の下津毛丘陵と井手口丘陵とを分かち谷底平野部、標高11m付近に位置しており、これまで水田として利用されていた。

遺構と遺物：遺構・遺物は検出されなかった。

調査後措置：工事実施。



Fig.31 周知外 井手口地区 (1/5,000)



PL.28 調査区全景

## V. 平成18年度の調査

Tab.3 平成18年度 町内道路確認調査一覧表

No	道路名	所在地	原因者	事業内容	工事面積(m <sup>2</sup> )	調査面積(m <sup>2</sup> )	確認調査時期	確認調査結果	調査後の措置	備考
1	一本谷道路	上峰町大字坊所字一本谷 2573番地18	個人	共同住宅建設工事	2,055	80	平成18年4月13日 平成18年4月14日	遺構・遺物は検出されなかった。	工事実施済。	
2	坊所一本谷道路	上峰町大字坊所字七本谷 1583番地6, 1590番地1	個人	集合住宅建設工事	1,780	180	平成18年6月27日	住居址・土壌・備品・ビットなどが検出され、住居址覆土中に土師器片が散見された。	開始中止。	
3	西前平田道路	上峰町大字前平田字地内	佐賀県	県道改良工事	3,551	230	平成18年9月26日 平成18年9月27日 平成18年9月28日 平成18年11月21日	住居址・土壌・ビットなどが検出され、住居址覆土中に土師器・須恵器片が散見された。	平成19年度本調査実施後、工事着手予定。	遺構が検出された500m <sup>2</sup> について、平成19年度に本調査を実施予定。
4	周知外 井手口地区(1)	上峰町大字坊所字二本谷 2436番地3	個人	共同住宅建設工事	401	20	平成18年10月13日	遺構・遺物は検出されなかった。	工事実施済。	
5	周知外 下坊所地区	上峰町大字坊所字下坊所 1757番地1, 1757番地2	個人	店舗・駐車場建設工事	1,968	70	平成18年10月19日 平成18年10月20日	遺構・遺物は検出されなかった。	工事実施中。	
6	三上道路(1)	上峰町大字坊所字西峰 2989番地1	上峰町	町有地売却	5,286	280	平成18年10月23日 平成18年10月25日 平成18年10月26日 平成18年10月27日	土壌・ビットなどが検出され、土壌から中世土師器片が出土した。	工事未着手。	
7	周知外 九丁分地区	上峰町大字江迎地内	佐賀県	県道改良工事	4,741	110	平成18年11月8日 平成18年11月9日 平成18年11月10日	遺構・遺物は検出されなかった。	工事実施済。	
8	三上道路(2)	上峰町大字坊所字三上 3169番地1	さが東部農業協同組合	分譲宅地造成工事	1,540	160	平成18年11月16日	遺構・ビットなどが検出され、中世土師器1点が出土した。	本調査実施後、工事実施済。	宅地内の道路部分250m <sup>2</sup> について本調査を実施。
9	三上道路(3)	上峰町大字坊所字西峰 2797番地1	有限会社シティ開発	分譲宅地造成工事	950	80	平成18年11月17日	住居址・土壌・ビットなどが検出され、住居址覆土中から土師器片が出土した。	本調査実施後、工事実施済。	宅地内の道路部分100m <sup>2</sup> について本調査を実施。
10	三上道路(4)	上峰町大字坊所字西峰 2969番地1	個人	分譲宅地造成工事	976	70	平成18年12月5日	遺構・遺物は検出されなかった。	工事実施済。	
11	周知外 上坊所地区	上峰町大字坊所字上坊所 390番地14	有限会社日葵	駐車場拡張工事	916	30	平成18年12月15日	遺構・遺物は検出されなかった。	工事実施済。	
12	周知外 井手口地区(2)	上峰町大字坊所字三本谷 2330番地1	大盛不動産	分譲宅地造成工事	1,356	40	平成18年3月13日	遺構・遺物は検出されなかった。	工事未着手。	



Fig.32 平成18 確認調査地位置図 (1/50,000)

H18-1

遺跡名：一本谷遺跡

調査地：上峰町大字坊所字一本谷

工事内容：共同住宅建設工事

工事面積：2,055㎡

調査面積：80㎡

調査時期：平成18年4月13日・14日

立地と環境：一本谷遺跡は、上峰町大字坊所字一本谷に所在する縄文時代から古墳時代に及ぶ集



Fig.33 一本谷遺跡 (1/5,000)

落・墳墓遺跡で、町北部の大字堤地区の二塚山丘陵から国道34号線以南に派生する井手口丘陵上に立地している。調査対象地区は井手口丘陵の東辺部、標高19m付近に位置しており、これまで宅地として利用され、現状は建物が撤去され更地となっていた。

遺構と遺物：遺構・遺物は検出されなかった。

調査後措置：工事実施。



PL.29 No.2試掘溝

H18-2

遺跡名：坊所一本谷遺跡

調査地：上峰町大字坊所字七本谷

工事内容：集合住宅建設工事

工事面積：1,7804㎡

調査面積：180㎡

調査時期：平成18年6月27日

立地と環境：坊所一本谷遺跡は、上峰町大字坊所字一本谷・七本谷に所在し、町のほぼ中央部郡境

地区の目途原丘陵から下津毛・井手口地区へ延びる下津毛・井手口両丘陵の基部一帯に広がる古墳時代から奈良・平安時代に及ぶ集落遺跡である。調査対象地区は、遺跡北部の郡境地区の丘陵基部、標高21m付近に位置しており、これまで資材置場として利用されていた。

遺構と遺物：奈良・平安時代の住居址1軒・土壇2基遺構・溝跡1条・ピットなどが検出され、検出された住居址覆土中に土師器・須恵器片が散見された。

調査後措置：開発中止。



Fig.34 坊所一本谷遺跡 (1/5,000)



PL.30 No.1試掘溝 遺構検出状況

H18-3

遺跡名：西前牟田遺跡

調査地：上峰町大字前牟田地区内

工事内容：県道改良工事

工事面積：3,551㎡

調査面積：230㎡

調査時期：平成18年9月26日～28日・11月21日

立地と環境：西前牟田遺跡は、町南西部の上峰町大字祇園町・七反田・北畠・一本杉・四割八坂に所在し、目達原丘陵南部の微高地上に位置する弥生時代から中世に及ぶ集落遺跡である。調査対象地区は、現県道に沿って、大字前牟田地区、現上米多集落付近の目達原丘陵を東西に横断するもので、丘陵東西の沖積地を含む標高4m～6m付近に位置しており、これまで水田・畑・宅地として利用されていた。

遺構と遺物：奈良時代の住居址2軒・土壇7基・ピットなどが検出され、検出された住居址覆土中に土師器・須恵器片が散見された。

調査後措置：遺構が検出された部分500㎡について、平成19年度に本調査を実施。調査後、工事実施。

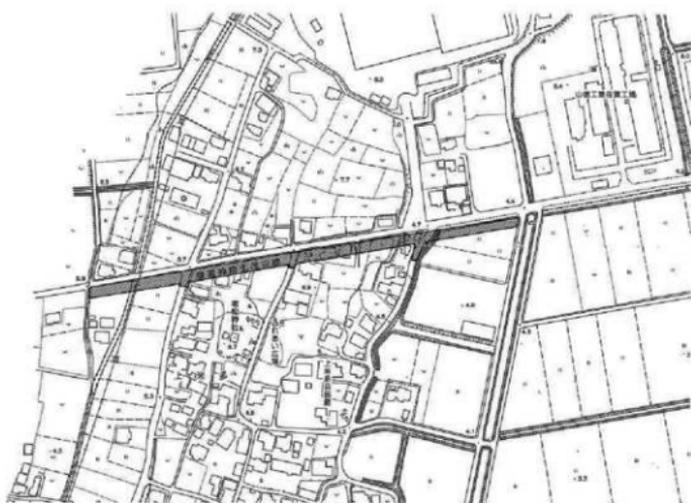


Fig.35 西前牟田遺跡 (1/5,000)



PL.31 No.6試験溝 遺構検出状況



PL.32 作業状況

H18-4

遺跡名：周知外 井手口地区(1)

調査地：上峰町大字坊所字二本谷

工事内容：共同住宅建設工事

工事面積：401㎡

調査面積：20㎡

調査時期：平成18年10月13日

立地と環境：調査対象地区は、町中央部の大字坊所、井手口地区に所在する。町中央部の下津毛丘陵と井手口丘陵とを分かつ谷底平野部、標高11m付近に位置しており、これまで水田として利用されていた。

遺構と遺物：遺構・遺物は検出されなかった。

調査後措置：工事実施。

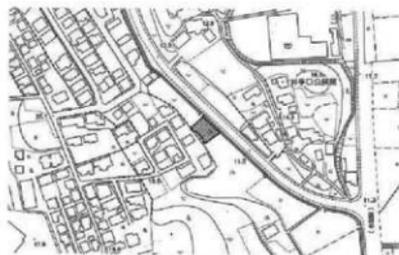


Fig.36 周知外 井手口地区(1) (1/5,000)



PL.33 作業状況

H18-5

遺跡名：周知外 下坊所地区

調査地：上峰町大字坊所字下坊所

工事内容：店舗・駐車場建設工事

工事面積：1,968㎡

調査面積：70㎡

調査時期：平成18年10月19日・20日

立地と環境：調査対象地区は、町中南部の上峰町大字坊

所字下坊所に所在し、坊所丘陵南東部、切

通川西岸の沖積地、標高5m付近に位置しており、これまで水田として利用されていた。

遺構と遺物：遺構・遺物は検出されなかった。

調査後措置：工事実施。



Fig.37 周知外 下坊所地区 (1/5,000)



PL.34 作業状況

H18-6

遺跡名：三上遺跡(1)

調査地：上峰町大字坊所字西峰

工事内容：町有地売却

工事面積：5,286㎡

調査面積：280㎡

調査時期：平成18年10月23日・25日～27日

立地と環境：三上遺跡は、町中南部の上峰町大字坊所字

三上・西峰、大字前幸田字小坊所に所在し、

目達原丘陵上に位置する縄文時代から中世に及ぶ集落遺跡である。調査対象地区は、目達原丘陵の中央部、標高12m付近に位置しており、これまで町営住宅として利用されていたが、撤去後、町営住宅跡地として更地となっていた。

遺構と遺物：中世の土壇5基・ピットなどが検出され、検出された土壇覆土中から中世土器片が出土した。

調査後措置：個人専用住宅用地として分譲売却後、住宅が建設された。



Fig.38 三上遺跡(1) (1/5,000)



PL.35 №.7試掘溝 遺構検出状況

H18-7

遺跡名：周知外 九丁分地区

調査地：上峰町大字江迎地内

工事内容：県道改良工事

工事面積：4,741㎡

調査面積：110㎡

調査時期：平成18年11月8日～10日

立地と環境：調査対象地区は、町南東部の大字江迎、九丁分地区、切通川の東西両岸にまたがる県道の橋梁及び取り付け道路部分で、切通川西岸部分は自然堤防部分標高4m付近、東岸部分は沖積地標高3m付近に位置しており、これまで西岸は宅地・畑として、東岸は水田として利用されていた。

遺構と遺物：遺構・遺物は検出されなかった。

調査後措置：工事実施。



Fig.39 周知外 九丁分地区 (1/5,000)



PL.36 №1試験溝



PL.37 作業状況

H18-8

遺跡名：三上遺跡(2)

調査地：上峰町大字坊所字三上

工事内容：分譲宅地造成工事

工事面積：1,540㎡

調査面積：150㎡

調査時期：平成18年11月16日

立地と環境：三上遺跡は、町中南部の上峰町大字坊所字

三上・西峰、大字前牟田字小坊所に所在し、

目達原丘陵上に位置する縄文時代から中世に及ぶ集落遺跡である。調査対象地区は、目達原丘陵の中央部、標高14m付近に位置しており、これまで畑として利用されていた。

遺構と遺物：奈良時代及び中世の溝跡7条・ピットなどが検出され、溝跡から中世土器片が出土した。

調査後措置：宅地内の道路部分250㎡について本調査を実施、宅地部分は盛土保存。本調査実施後、工事实施。



Fig.40 三上遺跡(2) (1/5,000)



PL.38 No.2試掘溝 遺構検出状況

H18-9

遺跡名：三上遺跡(3)

調査地：上峰町大字坊所字西峰

工事内容：分譲宅地造成工事

工事面積：950㎡

調査面積：80㎡

調査時期：平成18年11月17日

立地と環境：三上遺跡は、町南西部の上峰町大字坊所字

三上・西峰、大字前半田字小坊所に所在し、

目達原丘陵上に位置する縄文時代から中世に及ぶ集落遺跡である。調査対象地区は、目達原丘陵の  
中南部、標高9m付近に位置しており、これまで畑として利用されていた。

遺構と遺物：奈良時代の住居址2軒・土壇1基・ピットなどが検出され、検出された住居址覆土中から土師器片が  
出土した。

調査後措置：宅地内の道路部分100㎡について本調査を実施、宅地部分は盛土保存。本調査実施後、工事実施。



Fig.41 三上遺跡(3) (1/5,000)



PL.39 No.1試掘溝 遺構検出状況

H18-10

遺跡名：三上遺跡(4)

調査地：上峰町大字坊所字西峰

工事内容：分譲宅地造成工事

工事面積：976㎡

調査面積：70㎡

調査時期：平成18年12月5日

立地と環境：三上遺跡は、町南西部の上峰町大字坊所字

三上・西峰、大字前幸田字小坊所に所在し、

目達原丘陵上に位置する縄文時代から中世に及ぶ集落遺跡である。調査対象地区は、目達原丘陵の  
中南部、標高10m付近に位置しており、これまで畑として利用されていた。

遺構と遺物：遺構・遺物は検出されなかった。

調査後措置：工事実施。



Fig.42 三上遺跡(4) (1/5,000)



PL.40 No.1試掘溝

H18-11

遺跡名：周知外 上坊所地区

調査地：上峰町大字坊所字上坊所

工事内容：駐車場建設工事

工事面積：916㎡

調査面積：30㎡

調査時期：平成18年12月16日

立地と環境：調査対象地区は、町中南部の上峰町大字坊

所字上坊所に所在し、坊所丘陵東側、切通

川西岸の沖積地、標高7m付近に位置しており、これまで水田として利用されていた。

遺構と遺物：遺構・遺物ともに検出されなかった。

調査後措置：工事実施。



Fig.43 周知外 上坊所地区 (1/5,000)



PL.41 作業状況

H18-12

道 跡 名：周知外 井手口地区(2)

調 査 地：上峰町大字坊所字三本谷

工事内容：分譲宅地造成工事

工事面積：1,355㎡

調査面積：40㎡

調査時期：平成14年8月18日

立地と環境：調査対象地区は町中南部の上峰町大字坊所  
字三本谷に所在し、井手口丘陵東側、切通

川西岸の沖積地、標高12m付近に位置しており、これまで畑として利用されていた。

道構と遺物：道構・遺物ともに検出されなかった。

調査後措置：工事実施。



Fig.44 周知外 井手口地区(2) (1/5,000)



PL.42 作業状況



## VI. 平成19年度の調査

Tab.4 平成19年度 町内遺跡確認調査一覧表

No	遺跡名	所在地	原因者	事業内容	工事面積(m <sup>2</sup> )	調査面積(m <sup>2</sup> )	確認調査時期	確認調査結果	調査後の措置	備考
1	坊所二本谷遺跡(1)	上埴町大字坊所字二本谷 2496番地2	個人	店舗建設工事	170	8	平成19年4月27日	遺構・遺物は検出されなかった。	工事実施済。	
2	青柳古墳群	上埴町大字堀字六本谷 2622番地1	個人	集合住宅建設工事	1,447	28	平成19年5月30日	遺構・遺物は検出されなかった。	工事実施済。	
3	西前中田遺跡(1)	上埴町大字前中田字北畠 1779番地1, 1780番地1	個人	共同住宅建設工事	1,083	90	平成19年6月5日	住居址・土壇・溝跡・ピットなどが検出され、各遺構覆土中から弥生式土器片・船載陶器器片が出土した。	検出された遺構の保存について調査中。	
4	坊所二本谷遺跡(2)	上埴町大字坊所字二本谷 2496番地1, 2495番地7の一部、 2495番地26, 2495番地96、 2496番地97, 2505番地9、 2506番地10, 2505番地11、 2506番地16, 2512番地3、 2512番地4	ナチュラル株式会社	店舗・駐車場建設工事	7,600	664	平成19年8月6日 平成19年8月7日 平成19年8月8日 平成19年8月9日 平成19年8月10日 平成19年8月11日	一部の試掘溝において土壇・溝跡・ピットなどが検出されたが、遺物は出土しなかった。	本調査実施。平成20年4月から工事着手予定。	開発面積14,148㎡の内、過去に確認調査を行ったを除く7,000㎡を対象に確認調査を実施。
5	周知外 井平口地区	上埴町大字坊所字二本谷 2481番地	個人	分譲宅地造成工事	987	30	平成19年8月21日	遺構・遺物は検出されなかった。	工事実施済。	
6	外記遺跡	上埴町大字坊所字七本谷 1562番地2, 1581番地1、 1581番地2, 1581番地3、 1581番地7, 1581番地10、 1581番地15, 1581番地17、 1581番地19, 1581番地21、 1581番地25	個人	店舗・駐車場建設工事	8,300	630	平成19年8月31日 平成19年8月27日 平成19年8月28日 平成19年8月29日 平成19年8月31日	一部の試掘溝において住居址・土壇・溝跡・ピットなどが検出され、各遺構覆土中に土師器・須恵器片が散見された。	建物建設部分について、平成20年度本調査実施に向け調整中。	開発面積13,563㎡の内、現状で試掘可能な部分8,300㎡を対象に確認調査を実施。
7	権寺遺跡	上埴町大字坊所字権寺 572番地1	佐賀県農業協同組合	分譲宅地造成工事	6,058	255	平成19年9月7日 平成19年9月10日 平成19年9月11日	一部の試掘溝において住居址・土壇・ピットなどが検出され、住居址覆土中から弥生式土器片が出土した。	検出された遺構の取扱いについて調査中。	
8	周知外 東前中田地区	上埴町大字前中田字東前中田 89番地2	有限会社栗山ターフメンテナンス	分譲宅地造成工事	900	30	平成19年12月15日	遺構・遺物は検出されなかった。	工事未着手。	
9	西前中田遺跡(2)	上埴町大字前中田字西割八坂地内	佐賀県	県道改良工事	800	90	平成19年12月22日	一部の試掘溝において土壇・溝跡・ピットなどが検出され、各遺構覆土中に中世土器片が散見された。	平成20年度本調査実施後、工事着手予定。	遺構が検出された300㎡について、平成20年度に本調査実施予定。
10	三上遺跡	上埴町大字坊所字西峰 2776番地1	個人	分譲宅地造成工事	965	30	平成20年3月4日	遺構・遺物は検出されなかった。	工事未着手。	



Fig.45 平成19年度 確認調査地位置図 (1/50,000)

H19-1

遺跡名：坊所二本谷遺跡(1)

調査地：上峰町大字坊所字二本谷

工事内容：店舗建設工事

工事面積：170㎡

調査面積：8㎡

調査時期：平成19年4月27日

立地と環境：坊所二本谷遺跡は、町中央部の上峰町大字坊所字二本谷に所在する縄文時代から中

世に及ぶ集落遺跡で、井手口丘陵の西側一帯に立地している。調査対象地区は、県道三田川北茂安線北側、井手口丘陵西斜面の標高15m付近に位置しており、すでに宅地として拓かれた更地であった。

遺構と遺物：遺構、遺物は検出されなかった。

調査後措置：工事実施。



Fig.46 坊所二本谷遺跡(1) (1/5,000)



PL.43 作業状況

H19-2

遺跡名：青柳古墳群

調査地：上峰町大字堤字六本谷

工事内容：集合住宅建設工事

工事面積：1,447㎡

調査面積：28㎡

調査時期：平成19年6月30日

立地と環境：青柳古墳群は、上峰町大字堤字一本柳・六本谷に所在する小円墳を主体とする古墳

時代後期の古墳群で、町北部の鎮西山麓から大字堤字六本谷地区へ派生する丘陵の尾根上に位置している。調査対象地区は、県道鳥栖川久保線南側の丘陵斜面、標高44m付近に位置しており、これまで店舗・駐車場として利用されていた。

遺構と遺物：遺構・遺物は検出されなかった。

調査後措置：工事実施。



Fig.47 日遠原古墳群 (1/5,000)



PL.44 作業状況

H19-3

遺跡名：西前牟田遺跡(1)

調査地：上峰町大字前牟田字北畠

工事内容：共同住宅建設工事

工事面積：1,083㎡

調査面積：90㎡

調査時期：平成19年6月5日

立地と環境：西前牟田遺跡は、町南西部の上峰町大字祇園町・七反田・北畠・一本杉・四割八坂に



Fig.48 西前牟田遺跡(1) (1/5,000)

所在し、目達原丘陵南部の微高地上に位置する弥生時代から中世に及ぶ集落遺跡である。調査対象地区は、県道神崎北茂安線南側の微高地、標高6m付近に位置しており、これまで畑として利用されていた。

遺構と遺物：弥生時代の住居址2軒・中世の溝跡3条・土壇2基・ピットなどが検出され、検出された住居址覆土中から弥生式土器片が、溝跡覆土中から舶載青磁片が出土した。

調査後措置：開発計画中止。



PL.45 No.1試掘溝 遺構検出状況

H19-4

遺跡名：坊所二本谷遺跡(2)

調査地：上峰町大字坊所字二本谷

工事内容：店舗・駐車場建設工事

工事面積：14,148㎡

調査面積：664㎡

調査時期：平成19年6月6日～11日

立地と環境：坊所二本谷遺跡は、町中央部の上峰町大字

坊所字二本谷に所在する縄文時代から中

世に及ぶ集落遺跡で、井手口丘陵の西側一帯に立地している。調査対象地区は、県道三田川北茂安線北側、井手口丘陵西斜面の標高18m～20m付近に位置している。開発予定地内は、これまでに工場・倉庫・遊技場などとして利用されており、開発予定地北部に一部旧状を留めていた。

遺構と遺物：奈良・平安時代の建物跡2棟・溝跡1条・土壇15基・ピットなどが検出され、検出された柱穴・溝跡の覆土中に土師器・須恵器片が散見された。

調査後措置：遺構が検出された開発予定地北部の一部旧状を留めていた部分2,000㎡について本調査を実施。本調査実施後、工事実施。



Fig.49 坊所二本谷遺跡(2) (1/5,000)



PL.46 №.22試掘溝 遺構検出状況

H19-6

遺跡名：周知外 井手口地区

調査地：上峰町大字坊所字二本谷

工事内容：分譲宅地造成工事

工事面積：987㎡

調査面積：30㎡

調査時期：平成19年8月21日

立地と環境：調査対象地区は、町中央部の大字坊所、井手口地区に所在する。町中央部の下津毛丘

陵と井手口丘陵とを分かち谷底平野部、標高12m付近に位置しており、これまで水田として利用されていた。

遺構と遺物：遺構・遺物は検出されなかった。

調査後措置：工事実施。



Fig.50 周知外 井手口地区 (1/5,000)



PL47 No.3試掘溝

H19-6

遺跡名：外記遺跡

調査地：上峰町大字坊所字七本谷

工事内容：店舗・駐車場建設工事

工事面積：13,563㎡

調査面積：630㎡

調査時期：平成19年8月24日・27日～31日

立地と環境：外記遺跡は、上峰町大字坊所字二本谷・七

本谷に所在し、町のほぼ中央部郡境地区の

日連原丘陵から下津毛地区へ延びる下津毛両丘陵の基部一帯に広がる弥生時代から古墳時代に及ぶ集落・墳墓遺跡である。調査対象地区は、日連原丘陵の東斜面、標高20m付近に位置しており、これまで宅地・雑種地・店舗駐車場として利用されていた。

遺構と遺物：奈良・平安時代の住居址18軒・建物跡3棟・溝跡2条・土壇12基・ピットなどが検出され、検出された住居址などの遺構覆土中に土師器・須恵器片が散見された。

調査後措置：平成20年度に建物建設部分5,000㎡について本調査を実施。駐車場部分の遺構については盛土保存。本調査実施後、工事実施。



Fig.51 外記遺跡 (1/5,000)



PL.48 No.16試掘溝 遺構検出状況

H19-7

遺跡名：檀寺遺跡

調査地：上峰町大字坊所字檀寺

工事内容：分譲宅地造成工事

工事面積：6,058㎡

調査面積：255㎡

調査時期：平成19年9月7日・10日・11日

立地と環境：檀寺遺跡は、町中南部の上峰町大字坊所字

檀寺に所在し、現上坊所集落が立地する坊

所丘陵上に位置する弥生時代から中世に及ぶ集落遺跡である。調査対象地区は、坊所丘陵の北辺部、標高8m付近に位置しており、これまで農業協同組合上峰支所として利用されてきた。

遺構と遺物：弥生時代の住居址7軒・溝跡7条・土壇11基・ピットなどが検出され、検出された住居址覆土中から弥生式土器・黒曜石片が出土した。

調査後措置：分譲宅地内の道路部分について平成20年度に本調査を実施。宅地部分の遺構については盛土保存。本調査実施後、工事実施。



Fig.52 檀寺遺跡 (1/5,000)



PL.49 №3試掘溝 遺構検出状況

H19-8

遺跡名：周知外 東前牟田地区

調査地：上峰町大字前牟田字東前牟田

工事内容：分譲宅地造成工事

工事面積：900㎡

調査面積：30㎡

調査時期：平成19年12月15日

立地と環境：調査対象地区は、町南部の上峰町大字前牟田字東前牟田の所在し、坊所丘陵南部の沖積地、標高4m付近に位置しており、これまで水田として利用されていた。

遺構と遺物：遺構、遺物は検出されなかった。

調査後措置：開発計画中止。



Fig.53 周知外 東前牟田地区 (1/5,000)



PL.50 作業状況

H19-9

遺跡名：西前牟田遺跡(2)

調査地：上峰町大字前牟田字四割八坂

工事内容：県道改良工事

工事面積：800㎡

調査面積：90㎡

調査時期：平成19年12月22日

立地と環境：西前牟田遺跡は、町南西部の上峰町大字祇園町・七反田・北畠・一本杉・四割八坂に

所在し、目達原丘陵南部の微高地上に位置する弥生時代から中世に及ぶ集落遺跡である。調査対象地区は、県道神崎北茂安線南側の微高地、標高6m付近に位置しており、これまで畑として利用されていた。

遺構と遺物：中世の溝跡2条・土壇1基・ピットなどが検出され、検出された遺構の覆土中に中世土器片が散見された。

調査後措置：遺構が検出された部分300㎡について、平成20年度に本調査を実施。本調査実施後、工事実施。



Fig.54 西前牟田遺跡(2) (1/5,000)



PL.51 №3試掘溝 遺構検出状況

H19-10

遺跡名：三上遺跡

調査地：上峰町大字坊所字西峰

工事内容：分譲宅地造成工事

工事面積：965㎡

調査面積：30㎡

調査時期：平成20年8月4日

立地と環境：三上遺跡は、町南西部の上峰町大字坊所字

三上・西峰、大字前幸田字小坊所に所在し、

目達原丘陵上に位置する縄文時代から中世に及ぶ集落遺跡である。調査対象地区は、目達原丘陵の  
中南部、標高10m付近に位置しており、これまで畑として利用されていた。

遺構と遺物：遺構・遺物は検出されなかった。

調査後措置：工事実施。



Fig.55 三上遺跡 (1/5,000)



PL.52 作業状況



## VII. 平成20年度の調査

Tab.5 平成20年度 町内遺跡確認調査一覧表

No	遺跡名	所在地	原因者	事業内容	工事面積(m <sup>2</sup> )	調査面積(m <sup>2</sup> )	確認調査時期	確認調査結果	調査後の措置	備考
1	坊所五本谷遺跡	上峰町大字坊所字五本谷 2076番地1, 2077番地1	個人	共同住宅建設工事	1,747	150	平成20年4月18日	土壌が検出され、近 近掘削器具が出土し た。	工事実施済。	
2	周知外 能達地区	上峰町大字江迎字二本柳 867番地1	個人	作業場建設工事	651	20	平成20年5月27日	遺構・遺物は検出さ れなかった。	工事実施済。	
3	切通遺跡	上峰町大字道字四本谷 1903番地232	佐賀労働局	土地売却	150	18	平成20年6月24日	遺構・遺物は検出さ れなかった。	工事未着手。	
4	雁守遺跡	上峰町大字坊所字雁寺 666番地, 858番地3, 859番地9, 860番地	有限会社ランド開発	分譲宅地造成工事	3,396	207	平成20年9月1日 平成20年9月3日 平成20年9月4日 平成20年9月5日 平成20年9月6日	一部の試掘溝におい てピットが検出され たが、遺物は出土し なかった。	工事実施済。	検出された遺 構は盛土保 存。
5	三上遺跡(1)	上峰町大字坊所字三上 3137番地1	個人	共同住宅建設工事	970	90	平成20年9月10日	一部の試掘溝におい て土壌・ピットなどが 検出されたが、遺物 は出土しなかった。	工事実施済。	検出された遺 構は盛土保 存。
6	三上遺跡(2)	上峰町大字坊所字三上 3151番地1	個人	共同住宅建設工事	447	40	平成20年12月22日	遺構・遺物は検出さ れなかった。	工事実施中。	
7	周知外 下津毛地区	上峰町大字坊所字二本谷 250番地1, 250番地2	有限会社シティ開発	分譲宅地造成工事	3,380	110	平成21年3月25日 平成21年3月26日 平成21年3月27日	遺構・遺物は検出さ れなかった。	工事未着手。	



Fig.56 平成20年度 確認調査地位置図 (1/50,000)

H20-1

遺跡名：坊所五本谷遺跡

調査地：上峰町大字坊所字五本谷

工事内容：共同住宅建設工事

工事面積：1,747㎡

調査面積：150㎡

調査時期：平成20年4月18日

立地と環境：坊所五本谷遺跡は、町中南部、上峰町大字坊所字五本谷に所在し、町中西部の郡境地

区から現下津毛集落付近へ延びる下津毛丘陵南部に立地する弥生時代から中世に及ぶ集落遺跡である。調査対象地区は、下津毛丘陵の南部、標高10m～13m付近に位置しており、これまでは山林で一部が宅地として利用されていた。

遺構と遺物：近世の土壌1基が検出され、近世陶磁器片が出土した

調査後措置：工事実施。



Fig.57 坊所五本谷遺跡 (1/5,000)



PL.53 作業状況

H20-2

遺跡名：周知外 礎地区

調査地：上峰町大字江迎字二本柳

工事内容：作業場建設工事

工事面積：651㎡

調査面積：20㎡

調査時期：平成20年5月27日

立地と環境：調査対象地区は、町南部の上峰町大字江向

字二本柳に所在し、町南部の筑後川旧河道

にあたる沖積地、標高4m付近に位置しており、これまで水田として利用されていた。

遺構と遺物：遺構・遺物は検出されなかった。

調査後措置：工事実施。



Fig.58 周知外 礎地区 (1/5,000)



PL.54 作業状況

H20-3

遺跡名：切通遺跡

調査地：上峰町大字堀字四本谷

工事内容：土地売却

工事面積：150㎡

調査面積：18㎡

調査時期：平成20年6月24日

立地と環境：切通遺跡は、町中北部の上峰町大字堀字四本谷に所在し、二塚山丘陵南部、国道34号

線北部に位置する弥生時代の妻棺墓群を主体とする墳墓遺跡である。調査対象地区は、現切通集落が立地する二塚山丘陵の南東部、標高20m付近に位置しており、すでに宅地として利用されていた。

遺構と遺物：遺構、遺物は検出されなかった。

調査後措置：工事実施。



Fig.59 切通遺跡 (1/5,000)



PL.55 調査区全景

H20-4

遺跡名：樫寺遺跡

調査地：上峰町大字坊所字樫寺

工事内容：分譲宅地造成工事

工事面積：3,396㎡

調査面積：207㎡

調査時期：平成20年9月1日・3日～6日

立地と環境：樫寺遺跡は、町中南部の上峰町大字坊所字

樫寺に所在し、現上坊所・下坊所集落が立

地する坊所丘陵上に位置する弥生時代から中世に及ぶ集落遺跡である。調査対象地区は、坊所丘陵の中南部、標高8m付近に位置しており、一部が丘陵内の谷底平野部に跨っている。これまで丘陵上は宅地として、谷底平野部分は畑として利用されていた。

遺構と遺物：ピットが検出されたが、遺物は出土しなかった。

調査後措置：検出された遺構については盛土保存。工事実施。



Fig.60 樫寺遺跡 (1/5,000)



PL.56 作業状況

H20-5

遺 跡 名 : 三上遺跡(1)

調 査 地 : 上峰町大字坊所字三上

工事内容 : 共同住宅建設工事

工事面積 : 970㎡

調査面積 : 90㎡

調査時期 : 平成20年9月10日

立地と環境 : 三上遺跡は、町南西部の上峰町大字坊所字

三上・西峰、大字前牟田字小坊所に所在し、

目達原丘陵上に位置する縄文時代から中世に及ぶ集落遺跡である。調査対象地区は、目達原丘陵の北部、標高15m付近に位置しており、これまで畑として利用されていた。

遺構と遺物 : 縄文時代?の土壇3基・ピットなどが検出されたが、遺物は出土しなかった。

調査後措置 : 検出された遺構については、盛土保存。工事実施。



Fig.61 三上遺跡(1) (1/5,000)



PL.57 No.1試掘溝 遺構検出状況

H20-6

遺跡名：三上遺跡(2)

調査地：上峰町大字坊所字三上

工事内容：共同住宅建設工事

工事面積：447㎡

調査面積：40㎡

調査時期：平成20年12月22日

立地と環境：三上遺跡は、町南西部の上峰町大字坊所字

三上・西峰、大字前半田字小坊所に所在し、

目連原丘陵上に位置する縄文時代から中世に及ぶ集落遺跡である。調査対象地区は、目連原丘陵の北部、標高15m付近に位置しており、これまで畑として利用されていた。

遺構と遺物：遺構、遺物は検出されなかった。

調査後措置：工事実施。

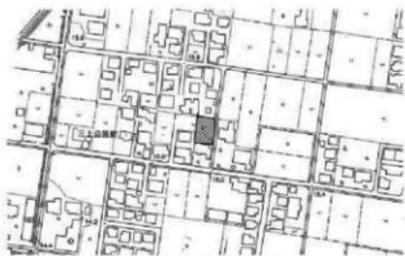


Fig.62 三上遺跡(2) (1/5,000)



PL.58 作業状況

H20-7

遺跡名：周知外 下津毛地区

調査地：上峰町大字坊所字二本谷

工事内容：分譲宅地造成工事

工事面積：3,380㎡

調査面積：110㎡

調査時期：平成21年3月25日～27日

立地と環境：調査対象地区は、町中南部の上峰町大字坊

所字二本谷に所在し、町中西部の目達原丘

陵と同丘陵から派生する下津毛丘陵を分かつ谷底平野部、標高7m付近に位置しており、これまで水田として利用されていた。

遺構と遺物：遺構、遺物は検出されなかった。

調査後措置：工事実施。



Fig.63 周知外 下津毛地区 (1/5,000)



PL59 調査区全景

## 報 告 書 抄 録

ふりがな	かみみねちょうないいせきかくにんちようさIV							
書名	上峰町内遺跡確認調査IV							
副書名	上峰町内における開発行為に伴う埋蔵文化財確認調査報告書 ―平成16年度～平成20年度―							
巻次								
シリーズ名	上峰町文化財調査報告書							
シリーズ番号	第36集							
編著者名	原田 大介							
編集機関	上峰町教育委員会							
所在地	佐賀県三養基郡上峰町坊所319-4 上峰町民センター内 Tel 0952-52-3833/Fax 0952-52-3888							
発行年月日	2013年3月26日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 ° / ′	東経 ° / ′	調査期間	調査面積㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
町内遺跡	佐賀県三養基郡 上峰町一円	41345				2004. 4. ～ 2009. 3		町内にお ける各種 開発行為
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物			特記事項	
町内遺跡	集落跡 墳墓跡	弥生時代 奈良・平安 時代 中世	竪穴式住居址 掘立柱建物跡 土壇・溝跡	弥生式土器 土師器・須恵器 中世土器・船載陶磁器				



上峰町文化財調査報告書第36集  
**上峰町内遺跡確認調査IV**

平成25年 3月12日 印刷

平成25年 3月26日 発行

編集 上峰町教育委員会

発行 佐賀県三養基郡上峰町坊所319-4

印刷 大同印刷株式会社

佐賀県佐賀市久保東町上和泉1848-20



